

平成 30 年 度

群馬大学大学教育・学生支援機構
報 告 書



群馬大学大学教育・学生支援機構

「平成30年度群馬大学大学教育・学生支援機構」報告書 発刊にあたって

大学教育・学生支援機構

副機構長 渡 辺 秀 司

群馬大学大学教育・学生支援機構は平成18年度に発足し、主に大学教育の企画・運営・改善・評価を担当する大学教育センター、学生の大学生活・就職活動を支援する学生支援センター、入学者選抜と学生募集に係る広報を担当する学生受入センター、学生及び大学教職員の心身の健康保持増進を図る健康支援総合センター、大学教育全体の改革を推進する教育改革推進室の4センター・1室の体制で構成されています。大学教育センターは、全学の教育実施・運営を担うことを明確にすべく、以前の教育基盤センターを改編して平成28年度に設置致しました。また、教育改革推進室は、以前の教育企画室を改編して平成29年度に設置致しました。さらに、総合情報メディアセンターと学内共同教育研究施設である国際センターも、学生の修学に必須の組織として本機構と連携して活動しております。これら全ての組織は、群馬大学の教育業務を基幹的に担う重要な組織です。

平成30年度は第三期中期目標の3年目の年であり、平成29年度に引き続いて大学改革、とりわけ教育改革が強く求められております。高大接続改革実行プランに基づく、「大学の個別選抜入試の改革・新テストの実施」、「高等学校教育の改革」、「大学教育の改革」の一体的推進方針の下、学力の3要素の育成、学士力の育成が高校・大学に求められています。そうした中で、大学教育、人材育成の充実に向けた教学マネジメント体制の構築に向けて、平成30年度は、改定したDP、CP、APの3つのポリシーを基に、大学教育の内部質保証のPDCAサイクルの構築に向けた取組みを引き続いて実施しております。他方、大学全体においても平成30年度は、群馬大学教育学部と宇都宮大学教育学部の双方の緊密な連携・協力に基づいた共同教育学部を令和2年度に設置すべく準備を進めています。また、これからの社会に欠かせない社会情報インフラの研究・開発、実装を担う人材育成を目指した文理融合型の情報系新学部への改組も引き続いて進めております。

先の見通せない時代にあって我が国の将来を担い、世界に羽ばたくことのできる人材を群馬の地にあって育成していくためには、平成27年度に行われた大学改革支援・学位授与機構による大学機関別認証評価や平成27年度までの第二期についての法人評価で受けた多くの指摘事項を基に、本学の教育・研究の質を更に一層高め、本学が地域に根ざし知的な創造を通じて世界の最先端へとチャレンジし、社会と連携して21世紀を切り開いていく大学であることを示す必要があります。そのため、本機構の4センター・1室の平成30年度における取組みをここにまとめ、その総括と課題の摘出を進めていくために本報告書を作成することには大きな意義があります。報告書を纏め、評価と企画の基礎となるデータの系統的整理を行っていくことは、教学のPDCAサイクルを実行していく上でも基本となる作業です。

最後になりますが、本報告書の作成に当たり、編集にご協力を戴いた教職員の方々、また執筆して戴いた方々に深く感謝申し上げます。

目 次

巻頭言

1 大学教育・学生支援機構の組織	1
1.1 大学教育・学生支援機構の組織図	1
1.2 大学教育・学生支援機構の構成員	2
1.3 教員による地域貢献事業	8
2 大学教育センター	12
2.1 教養教育部会	12
2.1.1 はじめに	12
2.1.2 平成30年度活動概要	12
2.1.3 平成30年度活動内容	12
2.2 外国語教育部会	14
2.2.1 はじめに	14
2.2.2 英語習熟度別クラス編成、及び英語アチーブメントテスト	14
2.2.3 TOEIC-IP	15
2.2.4 TOEFL-ITP	15
2.2.5 TOEIC・TOEFL説明会	15
2.2.6 ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験	16
2.2.7 ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト	16
2.2.8 理工学部の英語教育カリキュラムについて	17
2.2.9 教育学部の英語教育カリキュラムについて	17
2.3 教育推進部会	18
2.3.1 教養教育授業評価	18
2.3.2 ベストティーチャー賞選考	18
2.3.3 第10回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」	18
2.3.4 教員を対象とした英語授業のための研修について	19
3 学生支援センター	32
3.1 入学料免除及び徴収猶予	32
3.1.1 免除申請者数，免除者数	32
3.1.2 徴収猶予申請者数，徴収猶予者数	32
3.2 授業料免除及び徴収猶予	32
3.2.1 免除申請者数，免除者数	32
3.2.2 徴収猶予申請者数，徴収猶予者数	33

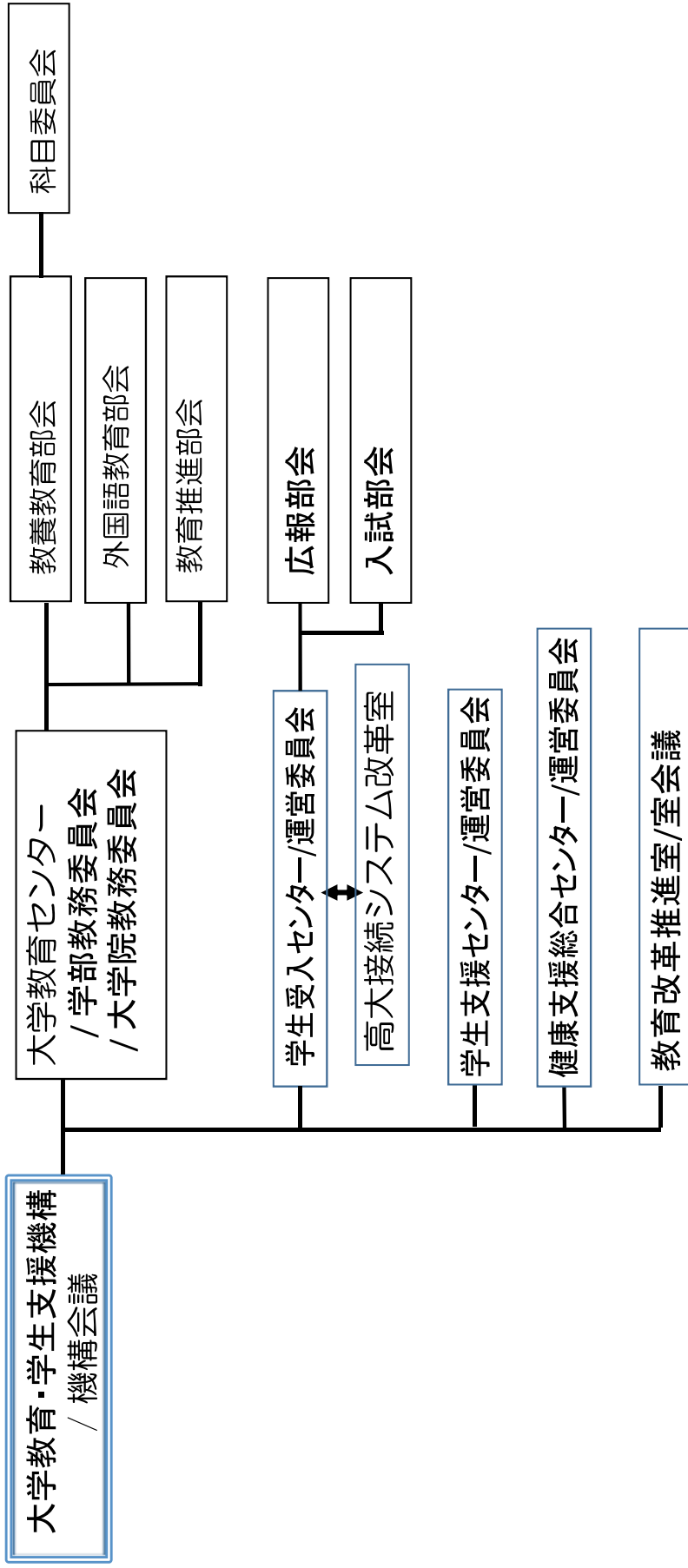
3.3	寄宿料免除	33
3.3.1	免除申請者数, 免除者数	33
3.4	奨学金	33
3.4.1	日本学生支援機構奨学生数 (平成30年10月1日現在)	33
3.4.2	日本学生支援機構以外の奨学生数 (平成30年10月1日現在)	33
3.5	学生相談体制及び学生相談	33
3.5.1	学生相談体制	33
3.5.2	主な相談事項	33
3.5.3	学生相談アンケートの実施及び活用	34
3.6	授業欠席状況調査	34
3.6.1	授業欠席者数及び主な欠席理由	34
3.6.2	実施方法, 時期	34
3.7	障害学生への支援	35
3.7.1	支援内容	35
3.8	学生教育研究災害傷害保険, 学研災付帯賠償責任保険	35
3.8.1	加入者数	35
3.8.2	請求種別保険金請求件数	35
3.9	通学証明書, 旅客運賃割引証	35
3.9.1	発行枚数及び主な発行理由	36
3.10	学生寮	36
3.10.1	養心寮入寮者数	36
3.10.2	啓真寮入寮者数	36
3.11	生活支援施設	36
3.11.1	食堂	36
3.11.2	売店	36
3.12	課外活動施設	37
3.12.1	体育施設	37
3.12.2	文化施設	39
3.12.3	課外活動共用施設	39
3.12.4	合宿所	39
3.13	学生団体及び主な活動	40
3.13.1	学生団体	40
3.13.2	大学祭	40
3.13.3	関東甲信越大学体育大会	40
3.13.4	クラブ・サークルリーダーシップ研修会	40

3.14	研修施設	41
3.14.1	北軽井沢研修所	41
3.14.2	草津セミナーハウス	41
3.15	学生の就職支援	42
3.15.1	進路状況及び主な就職先	42
3.15.2	全学就職ガイダンス・セミナーの開催	42
3.15.3	キャリアカウンセリングの充実	42
3.15.4	キャリアサポート室における情報収集環境の充実	42
3.15.5	就職支援の体制強化の充実	43
3.15.6	就職支援BOOKの作成・配布	43
3.16	就業力育成支援	43
3.17	学生生活実態調査	43
3.18	キャンパスニュース群の発行	44
3.19	事件・事故	44
3.20	学生支援センター資料集	44
4	学生受入センター	62
4.1	はじめに	62
4.2	オープンキャンパス等	62
4.2.1	群馬大学1日体験デー「GU' DAY2018」	62
4.2.2	学部別オープンキャンパス	62
4.3	学生募集に係わる広報活動	63
4.3.1	高等学校等の教員を対象とした説明会	63
4.3.2	群馬県高等学校長協会との意見交換会	63
4.3.3	大学説明会・進学相談会	63
4.3.4	夢ナビ	63
4.3.5	出張模擬授業	63
4.3.6	高校訪問	63
4.3.7	大学見学受入	63
4.3.8	大学案内，大学紹介動画の作成	63
4.3.9	ウェブサイト等による広報	63
4.3.10	学生広報大使による広報	63
4.4	広報戦略の立案	64
4.5	入学者の選抜方法改善と追跡調査	64
4.6	大学入学共通テストへの対応	64
4.7	その他	64

5	健康支援総合センター	71
5.1	はじめに	71
5.2	平成30年度実施事業	71
5.2.1	学生定期健康診断の実施	71
5.2.2	精神保健調査の実施	71
5.2.3	学校生活に関する困りごとの調査実施	71
5.2.4	学生特殊健康診断の実施	72
5.2.5	外国人留学生健康診断の実施	72
5.2.6	自殺予防対策ワーキンググループの発足	72
5.3	健康支援総合センター利用状況	72
5.3.1	利用人数及び件数	72
5.3.2	健康相談の対応内容別件数及びカウンセリング報告	72
5.3.3	疾病領域別利用者数	73
5.3.4	診療科別医療機関紹介件数	73
5.3.5	薬剤別処方日数	73
5.3.6	キャンパス・ソーシャルケースワーカーによる活動	73
5.4	教育関連活動	73
5.5	健康管理に関する調査研究活動	74
5.6	健康支援総合センター主催の委員会等	74
5.7	健康支援総合センターの全国会議等出席	74
5.8	学内行事実施に伴う救護業務	75
5.9	出版・広報活動	75
5.10	社会貢献活動	75
5.11	産業保健活動	76
5.11.1	安全衛生委員会	76
5.11.2	産業医部会	76
5.11.3	職員の定期健康診断	76
5.12	本来業務以外の支援業務	76
5.13	健康支援総合センターの現状及び今後の方向性	76
5.14	健康支援総合センター資料集	77
6	教育改革推進室	95
6.1	教育課程・学習成果に関する取り組み	95
6.2	内部質保証に関する取り組み	95

1 大学教育・学生支援機構の組織

1.1 大学教育・学生支援機構の組織図



1.2 大学教育・学生支援機構構成員

機構長	窪 田 健 二	
副機構長	渡 辺 秀 司	
大学教育センター		
センター長	窪 田 健 二	
副センター長	渡 辺 秀 司	
教授	キース・ベアリー	～平成30年 8月
教授	松 元 宏 行	
教授	結 城 恵 恵	
准教授	飯 島 睦 美	
准教授	飯 田 敦 史	
准教授	コントレラス・ジェフリー	
准教授	フーゲンブーム・レイモンド	
准教授	ベルジュロン・シルバン	平成31年 3月～
講師	サンプソン・リチャード	
講師	ネウパネ・プラミラ	平成30年 9月～
学生支援センター		
センター長	窪 田 健 二	
副センター長	福 地 豊 樹	
副センター長・准教授	五 味 洋 一	
障害学生支援室		
室長	五 味 洋 一	
就業力育成支援室		
室長	松 元 宏 行	
学生受入センター		
センター長	窪 田 健 二	
副センター長	杉 山 学	
健康支援総合センター		
センター長	田 村 遵 一	
副センター長・教授	竹 内 一 夫	
講師	宮 崎 博 子	
教育改革推進室		
室長	窪 田 健 二	
副室長	渡 辺 秀 司	
准教授	二 宮 祐	
委員会等		
大学教育・学生支援機構会議		
委員	窪 田 健 二	理事（教育・企画担当）・副学長
委員	渡 辺 秀 司	理工学府
委員	田 村 遵 一	医学部附属病院

委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員

福地豊樹
杉山内一夫
竹内林英樹
小坂本雅昭
キース・ベアラー
二宮明祐
道見明彦
田中麻里

教育学部
社会情報学部
大学教育・学生支援機構
教育学部
保健学研究科
大学教育・学生支援機構
大学教育・学生支援機構
学務部
教育学部

～平成30年8月

大学教育センター学部教務委員会

委員長
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員

窪田健二
渡辺秀司
小林英樹
キース・ベアラー
坂本雅昭
渡部孝子
岩井淳行
松崎利行
大西浩史
桂道見明彦
二宮祐

理事（教育・企画担当）・副学長
理工学府
教育学部
大学教育・学生支援機構
保健学研究科
教育学部
社会情報学部
医学系研究科
保健学研究科
理工学府
学務部
大学教育・学生支援機構

～平成30年8月

大学教育センター大学院教務委員会

委員長
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員

窪田健二
渡辺秀司
西園大実
山口陽弘
西村淑子
鯉淵典之
柳川右千夫
林邦彦
天道賢児
道見明彦
小林英樹
キース・ベアラー
坂本雅昭
二宮祐

理事（教育・企画担当）・副学長
理工学府
教育学部
教育学部
社会情報学部
医学系研究科
医学系研究科
保健学研究科
理工学府
学務部
教育学部
大学教育・学生支援機構
保健学研究科
大学教育・学生支援機構

～平成30年8月

大学教育センター教養教育部会

部会長
部会員
部会員
部会員
部会員
部会員
部会員
部会員
部会員
部会員
部会員

小林英樹
キース・ベアラー
渡部孝子
小林英樹
坂本和靖
鎌田英男
吉田亨
古畑朋彦
小谷英生
小寺竹裕人
中山嶋容明
中山雄勇人
内春光

教育学部
大学教育・学生支援機構
教育学部
教育学部
社会情報学部
医学系研究科
保健学研究科
理工学府
教育学部
社会情報学部
教育学部
教育学部
社会情報学部

～平成30年8月
平成30年9月～

部会員
部会員
部会員
部会員
部会員
部会員
部会員

後藤 藤 民 浩
渡 辺 秀 司
和 田 直 樹
松 元 宏 行
牧 原 宏 功
藤 谷 与 夫
二 宮 士 祐

理工学府
理工学府
医学系研究科
大学教育センター
国際センター
生体調節研究所
大学教育・学生支援機構

科目委員会：学びのリーディング委員会

委員長
委員
委員
委員
委員
委員
委員

小谷 英生
森谷 健
李 範 爽
蔡 林 正 飛
小 山 利 行
高 田 直 弘
和 田 直 樹
武 田 亘 弘

教育学部
社会情報学部
保健学研究科
理工学府
教育学部
社会情報学部
医学系研究科
理工学府

科目委員会：総合科目委員会

委員長
委員
委員
委員
委員
委員
委員

小竹 裕 人
金澤 貴 之
大野 富 彦
松崎 利 行
浅川 直 紀
小 林 直 子
上 宮 英 之
尾 崎 広 明

社会情報学部
教育学部
社会情報学部
医学系研究科
理工学府
教育学部
保健学研究科
理工学府

科目委員会：情報委員会

委員長
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員

寺嶋 容 明
齋江 貴 志
岩井 藤 淳
齋藤 勇 一郎
加藤 一 毅
佐藤 渡 一 広
豊村 村 暁
白 石 洋 一
横 山 重 俊

教育学部
教育学部
社会情報学部
医学系研究科
理工学府
社会情報学部
保健学研究科
理工学府
総合情報メディアセンター

科目委員会：スポーツ・健康委員会

委員長
委員
委員
委員
委員
委員

中雄 勇 人
新井 康 平
坂本 雅 昭
鈴木 孝 明
鬼澤 陽 子
木 山 慶 子

教育学部
社会情報学部
保健学研究科
理工学府
教育学部
教育学部

科目委員会：人文・社会科学委員会

委員長
委員
委員
委員
委員
委員

山内 春 光
今井 就 稔
藤井 正 希
山本 康 次郎
野田 玲 治
山 崎 法 子

社会情報学部
教育学部
社会情報学部
医学系研究科
理工学府
教育学部

委員	北村純子	社会情報学部	
委員	村田祥	保健学研究科	
科目委員会：自然科学委員会			
委員長	後藤民浩	理工学府	
委員	青木悠樹	教育学部	
委員	石川真一	社会情報学部	
委員	鯉淵典一	医学系研究科	
委員	高井伸和	理工学府	
委員	山本亮介	教育学部	
委員	岩崎博之	教育学部	
委員	西村尚之	社会情報学部	
委員	柳奈津子	保健学研究科	
委員	京免徹	理工学府	
大学教育センター外国語教育部会			
部長	キース・ベアリー	大学教育・学生支援機構	～平成30年8月
部長	渡部孝子	教育学部	平成30年9月～
部会員	小林英樹	教育学部	
部会員	飯島睦美	大学教育・学生支援機構	
部会員	コントレラス・ジェフリー	大学教育・学生支援機構	
部会員	フーゲンブーム・レイモンド	大学教育・学生支援機構	
部会員	飯田敦史	大学教育・学生支援機構	
部会員	サンプソン・リチャード	大学教育・学生支援機構	
部会員	ベルジュロン・シルバン	大学教育・学生支援機構	平成31年3月～
部会員	ネウパネ・プラミラ	大学教育・学生支援機構	平成30年9月～
部会員	山田敏幸	教育学部	
部会員	河島基弘	社会情報学部	
部会員	村上正巳	医学系研究科	
部会員	川島智幸	保健学研究科	
部会員	長尾智幸	理工学府	
部会員	田中一嘉	教育学部	
部会員	三原智子	教育学部	
部会員	野田岳人	国際センター	
部会員	渡辺秀司	理工学府	
大学教育センター教育推進部会			
部長	坂本雅昭	保健学研究科	
部会員	上里京子	教育学部	
部会員	永野清仁	社会情報学部	
部会員	鯉淵典一	医学系研究科	
部会員	半谷禎彦	理工学府	
部会員	二宮祐	大学教育・学生支援機構	
学生支援センター運営委員会			
委員長	窪田健二	理事（教育・企画担当）・副学長	
委員	山内春光	社会情報学部	
委員	五味洋一	大学教育・学生支援機構	
委員	任谷龍在	教育学部	
委員	大谷龍二	教育学部	

委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員
委員

前田 直 泰
和崎 博 樹
篠野 圭 光
上野 村 司
田村 山 充
杉淵 淵 学
鯉川 川 之
大内 内 司
竹園 田 夫
園 田 子

社会情報学部
医学系研究科
保健学研究科
理工学府
教育学部
社会情報学部
医学系研究科
学務部
大学教育・学生支援機構
国際センター

学生支援センター学生相談・生活部会

部長 山内 春 光
部員 五 味 洋 一
部員 任 龍 龍 在
部員 大 谷 二 泰
部員 前 田 樹 光
部員 和 篠 博 司
部員 上 野 圭 司
部員 渡 辺 秀 司
部員 竹 内 一 夫
部員 園 田 智 子
部員 大 川 雄 司
部員 宮 崎 博 子

社会情報学部
大学教育・学生支援機構
教育学部
教育学部
社会情報学部
医学系研究科
保健学研究科
理工学府
理工学府
大学教育・学生支援機構
国際センター
学務部
大学教育・学生支援機構

学生支援センター就職支援部会

部長 山内 春 光
部員 五 味 洋 一
部員 田 村 充 学
部員 杉 淵 典 学
部員 篠 崎 博 光
部員 上 野 圭 司
部員 大 川 雄 司
部員 松 元 宏 行

社会情報学部
大学教育・学生支援機構
教育学部
社会情報学部
医学系研究科
保健学研究科
理工学府
学務部
大学教育・学生支援機構

学生受入センター運営委員会

委員長 窪田 健 二
副委員長 杉山 学 学
委員 板橋 英 之
委員 永由 德 夫
委員 高山 弘 弘
委員 富田 芳 芳
委員 白田 滋 滋
委員 曾根 逸 人
委員 大山 川 司
委員 山西 崎 法 子
委員 平井 尚 之
委員 内田 宏 和
委員 中 川 陽 子
委員 川 紳 好

理事（教育・企画担当）・副学長
社会情報学部
理工学府
教育学部
社会情報学部
医学系研究科
保健学研究科
理工学府
学務部
教育学部
社会情報学部
医学系研究科
保健学研究科
理工学府

学生受入センター運営委員会広報部会
 部会長 杉山 学
 部会員 板橋 英 子
 部会員 山崎 法 子
 部会員 西村 尚 和 子
 部会員 平井 宏 子
 部会員 内田 陽 子
 部会員 中川 紳 好 子
 部会 大川 雄 司

社会情報学部
 理工学府
 教育学部
 社会情報学部
 医学系研究科
 保健学研究科
 理工学府
 学務部

学生受入センター入試部会
 部会長 杉山 学
 部会員 板橋 英 夫
 部会員 永由 德 弘
 部会員 高富 山 利 弘
 部会員 白田 田 治 芳
 部会 曾根 逸 滋 人

社会情報学部
 理工学府
 教育学部
 社会情報学部
 医学系研究科
 保健学研究科
 理工学府

高大接続システム改革室
 室長 窪田 健 二
 室員 板橋 英 之
 室員 杉山 学
 室員 富山 慶 典
 室員 伊藤 隆 芳
 室員 富内 田 治 隆
 室員 田 陽 子

理事（教育・企画担当）・副学長
 理工学府
 社会情報学部
 特別教授
 教育学部
 医学系研究科
 保健学研究科

健康支援総合センター運営委員会
 委員長 田村 遵 一
 委員 竹内 一 夫
 委員 宮崎 博 子
 委員 大谷 龍 二
 委員 前田 泰 樹
 委員 和藤 直 博
 委員 篠崎 博 光
 委員 上野 圭 司
 委員 松谷 治 司
 委員 大川 雄 司

理事（病院担当）・附属病院長
 大学教育・学生支援機構
 大学教育・学生支援機構
 教育学部
 社会情報学部
 医学系研究科
 保健学研究科
 理工学府
 総務部
 学務部

教育改革推進室
 室長 窪田 健 二
 副室長 渡辺 秀 司
 室員 二宮 祐 樹
 室員 小林 英 樹
 室員 キース・ベアラー
 室員 渡部 孝 子
 室員 坂本 雅 昭
 室員 板橋 英 之
 室員 杉山 学
 室員 結城 恵 夫
 室員 幾田 英 夫

理事（教育・企画担当）・副学長
 理工学府
 大学教育・学生支援機構
 教育学部
 大学教育・学生支援機構
 教育学部
 保健学研究科
 理工学府
 社会情報学部
 大学教育・学生支援機構
 大学教育・学生支援機構

1.3 教員による地域貢献事業

平成30年度活動内容

No.	教員名	活動内容	実施日
1	結城 恵	文化審議会国語分科会日本語教育小委員会委員	
2	結城 恵	文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育スタートアッププログラム【地域日本語教育アドバイザー】日本語教育施策推進アドバイザー	
3	結城 恵	群馬労働局 群馬地方最低賃金審議会委員	
4	結城 恵	前橋市 アーツ前橋運営評議会委員	
5	結城 恵	渋川市総合計画審議会副委員長	
6	結城 恵	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入環境充実事業」「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム委員	
7	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム グローカル・リーダーシップ・プログラム(GLLP)研究会委員	
8	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム 住環境整備推進委員会委員	
9	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム 生活・就職支援実行委員会委員	
10	結城 恵	留学生就職促進プログラム GHKG【業界対応型】インターンシップ 企画・運営	
11	結城 恵	留学生就職促進プログラム 「ビジネス日本語」 企画・運営	
12	結城 恵	留学生就職促進プログラム 「キャリア教育」 企画・運営	
13	結城 恵	留学生就職促進プログラム GHKG【業界対応型】インターンシップ 企画・運営	
14	竹内 一夫	全国大学メンタルヘルス学会理事	
15	竹内 一夫	全国大学保健管理協会評議員兼関東甲信越地方部会幹事	
16	竹内 一夫	群馬地方労働審議会委員	
17	竹内 一夫	群馬県障害者雇用対策プロジェクトチーム座長	
18	竹内 一夫	前橋市教育委員会学校問題対策専門委員会委員	
19	竹内 一夫	群馬産業保健総合支援センター評価委員・相談員	
20	竹内 一夫	群馬職域メンタルヘルス交流会運営委員兼評議員	

No.	教員名	活動内容	実施日
21	竹内 一夫	学会誌「ヘルスサイエンス研究」編集委員	
22	竹内 一夫	学会誌「大学生のメンタルヘルス」編集委員	
23	竹内 一夫	北関東医学会評議員	
24	竹内 一夫	学会誌 Endocrine Journal 査読委員	
25	竹内 一夫	連合群馬「ライフサポートぐんま」アドバイザー	
26	竹内 一夫	NPO法人日本ゲートキーパー協会理事	
27	飯島 睦美	文部科学省平成30年度発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業 スーパーバイザー 高崎市立寺尾中学校, 大類中学校 訪問指導	平成30年4月1日～(現在に続く) 4回程度/月
28	結城 恵	群馬大学高度人材育成センター 講義	4月16日
29	竹内 一夫	FMぐんま「ユウガチャ!マエストロ」コメンテーター (メンタルヘルスの話題)	4月18日, 5月16日, 6月20日
30	飯島 睦美	小中学生のための英語教師 (@飯島研究室)	5月7日, 5月10日, 5月21日, 5月23日, 5月24日, 5月28日, 6月4日, 6月14日, 6月25日, 11月1日, 11月5日, 11月12日, 11月15日, 11月22日, 11月29日, 2月5日, 2月27日, 3月7日
31	飯島 睦美	NPO法人 EDGE 読み書き困難な学習者のための英語指導研修会講師	5月20日, 10月21日, 1月27日
32	飯島 睦美	平成30年度群馬大学地域貢献事業 英語学習につまずく子どもの理解から始まる支援:理論と実践の融合 英国ランカスター大学Judith Kormos教授講演会開催	6月10日
33	竹内 一夫	群馬労働基準協会連合会技能研修「酸素欠乏」及び「有機溶剤」講師	6月20日, 7月11日, 9月12日, 1月23日, 3月13日
34	竹内 一夫	群馬県看護協会自殺予防研修講師	6月25日
35	飯島 睦美	mpi名古屋地区研究会 講師	7月1日
36	結城 恵	独立行政法人国際交流基金・アジアセンター主催「ダイバーシティをはぐくむEYESプロジェクト」プログラムアドバイザー (日本プログラム)	7月6日～15日
37	竹内 一夫	群馬県沼田市子育て支援センター事業講演・助言	7月9日
38	飯島 睦美	DUETA (獨協大学英語教育研究会) 講師	7月14日
39	竹内 一夫	産業カウンセラー協会上信越支部講習会講師	7月22日
40	竹内 一夫	群馬産業保健総合支援センター産業保健セミナー講師 「職域における成人の発達障害」(医師向け, 一般向け)	7月26日, 9月12日

No.	教員名	活動内容	実施日
41	結城 恵	文化庁委託事業平成30年度「生活者としての外国人のための日本語教育支援事業【地域日本語教育実践プログラム (B)】2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えた観光インバウンド活性化のための地域日本語教室～地域の観光関係者と外国人財と協働で築く「観光日本語」～【観光日本語講座】	8月5日, 8月26日, 9月9日, 10月14日, 11月17日, 11月18日, 12月2日, 12月16日, 2月3日, 2月17日
42	竹内 一夫	群馬テレビ「ビジネスジャーナル」コメンテーター(職場のメンタルヘルスシリーズ)	8月10日
43	飯島 睦美	高崎市立寺尾中学校ー寺尾小学校 小中連携会議スーパーバイザー	8月10日
44	飯島 睦美	平成30年度群馬大学地域貢献事業 英語学習につまずく子どもの理解から始まる支援:理論と実践の融合 英語教員対象指導方法研修会 開催	8月21日～8月23日
45	結城 恵	留学生就職促進プロジグラム GHKG【地域対応型】インターンシップin渋川伊香保	8月27日～9月8日
46	飯島 睦美	平成30年度筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校 研究協力委員会委員	10月1日, 1月31日, 2月1日, 2月13日
47	結城 恵	東京市町村自治調査会 事例視察(荒牧キャンパス) 「外国人材(留学生・外国人住民)が活躍するための自治体の役割」	10月17日
48	結城 恵	文化庁委託事業平成30年度「生活者としての外国人のための日本語教育支援事業【地域日本語教育実践プログラム (B)】2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えた観光インバウンド活性化のための地域日本語教室～地域の観光関係者と外国人財と協働で築く「観光日本語」～ 「第1回 観光日本語ワークショップー掲示のための『観光日本語』ー」	10月21日
49	竹内 一夫	伊勢崎佐波医師会産業医研修「職域における適応の障害」	11月2日
50	結城 恵	文化庁委託事業平成30年度「生活者としての外国人のための日本語教育支援事業【地域日本語教育実践プログラム (B)】2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えた観光インバウンド活性化のための地域日本語教室～地域の観光関係者と外国人財と協働で築く「観光日本語」～ 「第2回 観光日本語ワークショップー説明のための『観光日本語』ー」	11月4日
51	竹内 一夫	障害者就業・生活支援センター企業向け研修「職場で発達障害をどう受け入れるか」	11月13日

No.	教員名	活動内容	実施日
52	飯島 睦美	平成30年度群馬大学地域貢献事業 英語学習につまずく子どもの理解から始まる支援：理論と実践の融合 英国ブルネル大学Taeko Wydell教授講演会・シンポジウム開催	12月8日
53	結城 恵	「外国人×子ども×協働～外国にルーツを持つ子どもの現状からともに生きる日本語教育を考察する～」講師	12月9日
54	飯島 睦美	読み書きが苦手な中学生が活躍するためのICT活用講習会講師 (@高崎健康福祉大学)	12月16日, 3月30日
55	飯島 睦美	高崎市立寺尾中学校-寺尾小学校 小中校長会議スーパーバイザー	1月15日
56	結城 恵	文化庁委託事業平成30年度「生活者としての外国人のための日本語教育支援事業【地域日本語教育実践プログラム(B)】2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えた観光インバウンド活性化のための地域日本語教室～地域の観光関係者と外国人財と協働で築く「観光日本語」～ 「第3回 観光日本語ワークショップ-対話のための『観光日本語』-」	1月27日
57	飯島 睦美	特別支援教育士SENS大阪支部研修会講師	1月28日
58	結城 恵	留学生就職促進プログラム 留学生就職活動<直前対策>セミナー	1月18日～19日
59	竹内 一夫	富岡市甘楽郡医師会産業医研修「大人の発達障害」	1月30日
60	竹内 一夫	高崎健康福祉大学健康福祉学部博士課程副査	2月6日
61	飯島 睦美	平成30年度埼玉県熊谷市大里地区中高連絡協議会研修会 講師	2月6日
62	結城 恵	文化庁委託事業平成30年度「生活者としての外国人のための日本語教育支援事業【地域日本語教育実践プログラム(B)】2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えた観光インバウンド活性化のための地域日本語教室～地域の観光関係者と外国人財と協働で築く「観光日本語」～【シンポジウム】	2月17日
63	飯島 睦美	平成30年度高崎市教育センター 春の教育セミナー 講師	3月2日
64	竹内 一夫	群馬県医師会メンタルヘルスケア研修会講師「職場のメンタルヘルス～群馬県内ストレス調査の20年」	3月13日
65	結城 恵	留学生就職促進プログラム インターンシップ成果報告会 (第1回)	3月18日
66	結城 恵	留学生就職促進プログラム インターンシップ成果報告会 (第2回)	3月20日

2 大学教育センター

2.1 教養教育部会

2.1.1 はじめに

平成23年度に発足した教養教育部会は、教養教育を実施・運営するための調整をはじめとする実務的側面を担う組織である。部会長、副部会長、大学教育センター副センター長、外国語教育部会部会長、科目委員会（学びのリテラシー、総合科目、情報、スポーツ・健康、人文・社会科学、自然科学）の各委員長、就業力育成支援室、国際センター、生体調節研究所、大学教育・学生支援機構から各1名及び各学部教務委員（教育学部、社会情報学部、理工学部からは各1名、医学部からは医学科、保健学科より各1名の計2名）の構成員からなる。平成30年度は兼担者がおり総計18名のメンバーで活動した。

2.1.2 平成30年度活動概要

教養教育部会は、毎月1回（原則として第3月曜日）に定例部会を開催し、教養教育実施に関する諸問題について討議した。平成30年度は、4月に第1回の部会を開催し、8月の休会を除いて、平成31年3月まで計11回の定例会議及び1回の持回り会議を行った。活動全般としては、例年どおりであったが、2020年度から「情報」に代わり実施することとなった「データ・サイエンス」の授業について必要な規則改正に基づく議論を行った。

2.1.3 平成30年度活動内容

平成30年度教養教育部会の主な業務は下記のとおりであった。

- 1) 次年度教養教育科目開講コマ数の確定
- 2) 次年度教養教育実施体制（担当教員などの確定）についての承認
- 3) 次年度教養教育科目等の時間割の確定
- 4) 次年度学年暦の作成・承認
- 5) 非常勤講師（ゲスト講師を含む）採用のための審査
- 6) 教養教育科目の授業にかかわる経費などの承認
- 7) 合宿研修費要求に関する審査
- 8) TAの採用に関する審査
- 9) アクティブラーニングのための教室整備についての検討
- 10) 教養教育期末試験実施に関する要領の一部改正
- 11) 「データ・サイエンス」の実施についての討議
- 12) 授業評価アンケートの結果及び授業改善アンケートの確認
- 13) 障害を有する入学志願者との事前相談に関する報告
- 14) 放送大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
- 15) 協定を結ぶ他大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
- 16) 交換留学生の教養教育科目履修についての報告

これらの主要業務及びそれに関連する事項について、月別に示すと以下のとおりとなる。

- 4月 新入生のオリエンテーションの実施
- 5月 交換留学生の前期教養教育科目履修届についての報告
教養教育関係予算案の承認
- 6月 文化講演会の開催

- 平成31年度学年暦案の提示
前期修得単位認定の報告
- 7月 前期期末試験の実施
平成31年度学部別担当コマ数に関する基本方針の承認
平成31年度学年暦案の確認
- 9月 平成31年度教養教育実施体制案の提示
障害等のある入学志願者との事前相談についての報告
平成30年度前期教養教育科目における追試験許可についての報告
- 11月 学長と学生との懇談会実施
平成31年度教養教育実施体制案の検討
交換留学生の後期教養教育科目履修届についての報告
後期修得単位認定の報告
- 12月 平成31年度教養教育実施体制および開講科目についての承認
協定を結ぶ他大学との単位互換科目についての承認
協定を結ぶ他大学との単位互換に係る履修可能授業科目についての承認
平成31年度非常勤講師の採用についての承認
平成31年度学年暦案の承認
- 1月 平成31年度教養教育開講科目（一部変更）についての承認
- 2月 後期期末試験の実施
平成31年度開放専門科目についての承認
数理情報及びデータ科学に関するリテラシー教育について討議
平成30年度後期教養教育科目における追試験許可についての報告
- 3月 平成31年度新入生オリエンテーション計画の作成
平成31年度TAの採用計画案についての承認
平成31年度教養教育履修手引の作成
「データ・サイエンス」の授業科目の概要の作成

その他、具体的な活動の一部を以下に記載する。

1) アクティブラーニングのための教室整備について

アクティブラーニング授業に適した教室の整備を行った。壁面にホワイトボードを設置するとともに、3人掛の長机を1人用の机に変更し、学習者が中心となれる教育環境を整えた。

2) 総合科目群「海外短期研修⑨」の開設について

「総合科目群」の「海外短期研修⑨」を開設することを決定した。ベトナムFTP大学でベトナム文化やビジネス英語の研修参加後、参加学生の専門分野に合わせた受入先企業でインターンシップを行うこととし、平成31年度から実施する。

3) 理工学部における高年次向け教養英語の開講について

第三期の中期計画に掲げる「高年次までの英語教育の拡大」のパイロット的なプログラムを目指すこととして、平成30年度理工学部入学生が2年次になる平成31年度に桐生キャンパスで履修する「英語C I」「英語C II」の実施について環境を整えた。

4) 平成30年度文化講演会について

今年度の文化講演会を以下のとおり実施した。

- 開催日時：平成30年6月5日（火）16：00～17：30
- 会場：荒牧地区 大学会館ミュージズホール
- 講師：小林寛史

[一般社団法人ICTまちづくり共通プラットフォーム推進機構理事・事務局長]

○演 題：「あなたの情報は誰のもの？」

～パーソナル・ヘルス・レコードの未来～

参加者は115名で、成功裏に終了した。参加者の内訳は以下の通りであった。

総合科目群「ぐんま未来学」受講学生	103名
授業以外の本学学生	3名
教職員	9名

2.2 外国語教育部会

2.2.1 はじめに

平成30年度、外国語教育部会は、前年度同様、全学の外国語教育の改善に取り組んだ。4月には全学部で新入生を対象に英語プレイスメントテスト（クラス編成テスト）を実施し、その結果に基づき、英語習熟度別クラス編成を行った。1年生のクラス規模については、平成28年度から引き続き、全学部において単位認定者見込み数を差し引いた実質的な履修者数は34名以下とした。

まず、理工学部のアchievementテスト（学習到達度測定テスト）に関しては、前期末に英語統一テスト（TOEIC-IP）を実施し、その結果を前期の英語授業（「英語AI」「英語BI」）の成績に算入した。後期に関しては、平成27年度より引き続き、1年生を対象（医学部医学科を除く）に、アチーブメントテストとして英語統一テスト（TOEIC-IP）を実施し、その結果を後期の英語授業の成績に算入した。教育学部及び社会情報学部においては、同テストの結果をもとに「英語2年」の習熟度別クラス編成を行った。

さらに、これまでの英語教育の改善への取り組みを広げるため、今年度の外国語教育部会では、以下の3点を決定した。

- ① 理工学部・社会情報学部・教育学部・医学部保健学科に続き、令和元年度より医学部医学科においても英語統一テストの成績を1年生の後期英語授業の成績に算入することとし、英語統一テストの成績算入を全学で取り入れる、
- ② 令和2年度から理工学部2年生の教養英語の履修単位2単位を新たに設ける。
その一環として、令和元年度については英語C「発展英語」を桐生キャンパスにて10クラス開講することになった。この「発展英語」は、問題解決のための課題に取り組みながら、英語コミュニケーション力を向上させていくことを目的としており、より実践的な英語コミュニケーション力が養われることが期待される。
- ③ アクティブ・ラーニングを促進するための教室整備についての提案が認められ、GC101（固定式から可動式の机、ホワイトボード設置面の拡大等）及びGC102（ホワイトボード設置面の拡大）の改修が行われた。令和元年度から教室を使用し、今後その教育効果についても検討していくことになった。

例年同様、希望者対象のTOEFL-ITPの実施（7月、12月の2回実施）、e-ラーニングの推進を行った。さらに、ドイツ語及びフランス語の技能検定試験並びに年度末共通テスト（アチーブメントテスト）を実施し、受講学生の学力向上の度合いを客観的に計測した。

2.2.2 英語習熟度別クラス編成、及び英語アチーブメントテスト

英語習熟度別のクラス編成は、平成19年度に行ったアンケート調査の分析結果に基づき、平成20年度から、希望する学部・学科のクラスを対象として正式に実施されることになり、平成21年度より、社会情報学部1年・2年、保健学科看護学専攻1年（保健A・Bクラス）、工学部応用化学・生物化学科1年の英語クラスにおいて習熟度別クラス編成が行われた。平

成22年度には、翌年度以降、工学部すべての学科に対して実施することが計画され、平成22年度末に社会情報学部及び工学部の全一年次生に対して、アチーブメントテストを実施した。このデータをもとに、平成23年度の4月には両学部の全新生に対して、プレイスメントテストを行い、習熟度別クラス編成を行った。平成25年度には、医学部（医学科・保健学科）の新生に対して、翌26年度には、教育学部の新生に対してもプレイスメントテストを実施した。今年度も、例年同様、1年次生については1クラス40名以下の習熟度別クラスを全学部で編成し、単位認定者見込み数を差し引いた実質的な履修者数を1クラス34名以下とした。また、平成28年度には、平成29年度以降に入学した教育学部2年生についても習熟度別クラス編成の実施が決定された。この結果、平成30年度には、医学部2年生（医学科・保健学科）を除く、すべての教養英語クラスにおいて、習熟度別クラス編成が実施された。

プレイスメントテスト 平成30年4月2日（月）14：00～15：20

受験者：医学部医学科	108名
医学部保健学科	160名
社会情報学部	102名
教育学部	238名
理工学部	527名

監督：12名（理工学部より2名，社会情報学部より1名，医学科より2名，保健学科より3名，教育学部より3名，大学教育センターより1名）

2.2.3 TOEIC-IP

群馬大学では平成15年度からTOEIC-IPを継続的に実施しており、外国語教育部会が中心となって、多くの学生のTOEIC-IP受験を促している。

実施は年2回（7月／1月）で、平成21年度からは、申し込み手続を群馬大学で直接行うことにより、受験料を低く抑えることが可能になった。平成30年度の実施日時、受験者数は以下のとおりである。

1回目：平成30年7月18日（水；17：40～20：10）	実施：受験者	676名
2回目：平成31年1月22日（火；9：40～12：10）	実施：受験者	1,346名

2.2.4 TOEFL-ITP

海外留学を希望する学生にとってTOEFLの成績が要求されることが多いため、群馬大学では平成20年度から、TOEFL-ITPを荒牧キャンパスで年2回（6月もしくは7月と、12月もしくは1月）実施することとした。平成30年度の日程と受験者数は以下のとおりであった。

1回目：平成30年7月25日（水；17：40～20：05）	実施：受験者	15名
2回目：平成30年12月20日（木；17：40～20：05）	実施：受験者	15名

TOEFL-ITPは、10名以上が参加しないと実施できないため、今後も外国語教育部会が中心となって、広報に努力を払い、各部局の協力を得ながら、参加者の拡充を目指していくこととした。

2.2.5 TOEIC・TOEFL説明会

TOEICならびにTOEFLについて、全1年生を対象に、全学オリエンテーション（4月2日）で説明を行った。

2.2.6 ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験

群馬大学では、ドイツ語、フランス語担当教員の協力のもと、地域貢献活動の一環として、群馬大学を会場とし、本学学生のみならず周辺地域の受験希望者がドイツ語技能検定試験、フランス語技能検定試験を受験できるよう継続的に努力してきており、平成30年度もドイツ語技能検定試験（5級～1級）を1回、フランス語技能検定試験（5級～1級）を2回、荒牧キャンパスにおいて実施した。実施日時と受験者数は以下のとおりである。

ドイツ語技能検定試験

- ・実施日時：冬季試験：平成30年12月2日（日）全級（5・4・3・2・準1・1級）
学内外の総受験者数：36名（複数級併願者含む）
群馬大学生受験者数：2名（但し、学校名を記入していない本学学生の受験者はこの数値に含まれない。）

フランス語技能検定試験

- ・実施日時：春季試験：平成30年6月17日（日）（5, 4, 3, 準2, 2, 1級）
学内外の総申込者数：68名（複数級併願者含む）
- ・実施日時：秋季試験：平成30年11月18日（日）（5, 4, 3, 準2, 2, 準1級）
学内外の総申込者数：61名（複数級併願者含む）
- ・春秋の申込者数総計129名

2.2.7 ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト

外国語教養科目のうち、特にドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語などの印欧語族の言語学習は、中学での英語授業時間の短縮、高校での英文法授業の簡略化に伴い、同系語族の文法を論理的に理解する貴重な機会となってきた。また、英語以外の外国語学習は、その言語のみならず、英語や母語を含んだ総合的な言語能力を高め、学習者のコミュニケーション能力全体の向上に寄与することも期待される。したがって教育内容の充実のためには、学習の達成度を客観的に把握することも重要である。

外国語教養科目のうち、専任教員が在籍しているドイツ語及びフランス語については、学習の進捗を測定するために平成21年度以来実施している共通のアチーブメントテストを、今年度も実施した。（週2回1年間4単位（学習時間年間120時間*）履修可能な授業の中から、週1回分を専任教員が担当するクラスをピックアップし、年度末最終授業時に共通問題で実施（試験時間：ドイツ語45分、フランス語30分**）

ドイツ語共通アチーブメントテスト

- ・実施日 平成31年1月28日（月）社会情報学部6名受験
- ・実施日 平成31年1月30日（水）医学部医学科6名受験
- ・実施日 平成31年2月1日（金）理工学部4名受験

フランス語共通アチーブメントテスト

- ・実施日 平成31年2月4日（月）教育学部EA1～EA4クラス18名受験
- ・実施日 平成31年1月29日（火）医学部医学科21名受験
- ・実施日 平成31年2月6日（水）社会情報学部12名受験

今年度は諸事情により、ドイツ語の受験者が少なくなってしまうことが反省点である。しかし、受験者数に関わらず、平成21年度の実施開始以降現在までに得られている、以下の傾向に変化はなかった。

* 4単位（120時間）を履修する学生の平均得点は、どの学部でも全国のドイツ語技能検定

3級ないしフランス語技能検定3級合格者の最低得点と概ね同等である。

* 2単位履修者の平均得点は4単位履修者に比べて例年約20点低く、高得点者が少ないうえ、極端に得点が低い者が多い傾向が続いている。

* クラスサイズが30名を超えると得点が下がり始める傾向がある。

教室では、学生の英語以外の外国語に対する興味や学習意欲は十分高いのに、学力・学習能力のみが年々少しずつ低下してゆく傾向が見られる。英語以外の外国語への興味・意欲を保ちながら、外国語の学習能力を高める指導の工夫、少人数授業の徹底、およびカリキュラムの拡充が、今後の課題であろう。また、英語以外の外国語の履修者の方が未履修者よりも、TOEICなどの英語の得点がより大きく向上することを示すデータも徐々に集積されつつある。

2.2.8 理工学部の英語教育カリキュラムについて

理工学部においては、学生の大学院進学率が高く、その進学の可否判定にはTOEICの得点を利用されている。また学部・大学院ともに、卒業・修了後ビジネス界に就職する率もとても高い学部・研究科であり、職に就いた後も英語力を要求されることは必至である。そこで外国語教育部会は平成22年度に、群馬大学の学生のおよそ半数を占める工学部（現、理工学部）学生の英語力を増強するために、大幅な英語カリキュラムの改善を検討した。その結果平成23年度には、教育基盤センター「外国語教育部会」がこれを実行に移した。おもな変更点は以下のとおりであるが、平成24年度以降もこの方策を継承し、さらに、1クラスの受講者数を削減するために、全体のクラス増を実現した。平成30年度現在、計20クラスを開講し、引き続き、少人数クラスでの授業を実施している。

- 1) 週2回（90分×2回）の英語授業を履修させる。
- 2) 前期2単位、後期2単位で、1年次に4単位を取得させる。
- 3) 週2回のうち、1回は文法・読解力の養成、1回は聴解・会話等、コミュニケーション能力の育成を目指した授業とする。
- 4) 4月入学時にプレースメントテストを行い、習熟度別クラスを実現する。
- 5) 7月の前期終了時にアチーブメントテストを行う。
- 6) 1月に後期アチーブメントテストを行い、達成度を計測する。

本学では全学的に、卒業要件となる英語の単位は4単位となっているが、基本的な英語力の低い学生については、1年次に4単位を履修させることが望ましい。そのため、週2回の英語の授業で4単位を取得させるカリキュラムを運営している。また授業形態も「読解型」と「コミュニケーション型」の2種類とした。

こうした変更の成果は、新カリキュラムの導入から2年後の平成25年度末のアチーブメントテストの結果に明確に現れた。また、平成27年7月のTOEIC-IPテストの結果は前年度比の伸び率が高く、その原因としては、理工学部における統一カリキュラムの効果に加え、平成27年度より、理工学部の入試に英語試験が導入されたことに起因すると考えられる。さらに、入試科目に英語導入後においても、TOEIC-IPテスト結果は引き続き伸びている。平成27年度以降から平成30年度7月実施の平均点は、H27(433.25点)、H28(446.80点)、H29(457.60点)、H30(467.30点)と着実に継続して伸びている。

2.2.9 教育学部の英語教育カリキュラムについて

平成23年度から小学校第5・第6学年の外国語（英語）活動が必修化され、さらに新学習指導要領（平成29年3月告示）により、令和2年度には外国語（英語）活動が小学校第3・4学年に引き下げられ、外国語（英語）が小学校第5・6学年で教科として全面実施となる。そのため、学校教育現場では、小学校教員にも英語を指導する能力だけでなく、ALTとのティーム・ティーチングを行うための英語コミュニケーション能力が求められている。群

馬大学教育学部の学生は基本的に小学校の免許を取得することになっているため、大学における英語教育のさらなる充実が望まれる。

外国語教育部会では、教育学部の教養英語について、令和元年度入学生以降の新カリキュラム実施を目指し、4技能を総合的に鍛えるための統一シラバスの考案、適切な教科書・教材の選定、成績の付け方の統一、ないしは、不公平のない成績の付け方、2年次の習熟度別クラス編成等について引き続き検討していくこととした。

2.3 教育推進部会

教育推進部会では、教育実施体制及び教育方法等に関する企画立案を図るため教養教育授業評価、ベストティーチャー賞選考及び全学FD講演会を実施した。

2.3.1 教養教育授業評価

平成25年度より全学で導入された「学びのリテラシー (1)」、「学びのリテラシー (2)」及び「情報」の授業評価アンケートを、全学部1年生を対象として実施した。学生からの回答率は、対象科目全体で約75%であったが、学部間での回答率に差異(38～93%)があることから、担当教員から学生に回答を促すよう周知した。

「学びのリテラシー (1)」は、「日本語能力及びプレゼンテーション能力の涵養」を目的としている。各設問ともに8割以上が良好との回答が得られており、講義目的は概ね達成されていると判断された。また、本科目の特徴である、アクティブラーニングの実施については、「あてはまる」が全学部平均で95%(93.1～98.6%)と昨年度より2.5ポイント改善しており、担当教員の授業内容改善の努力がうかがえた。

「学びのリテラシー (2)」では、講義内容に関する設問で8～9割が良好の回答が得られており、講義目的は概ね達成されていると判断された。一方で、「希望した科目を選ぶことができた」に関しては、2割を超える学生が「あてはまらない」と回答しており、開設科目、受講者数、割振り方法等を検討する必要性が示唆された。

「情報」では、講義内容に関する設問で8割以上が良好との回答が得られており、講義目的は概ね達成されていると判断された。昨年度の調査では、「学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった」の項目で学部間での差はあるものの2割を超える学生が「あまりあてはまらない」と回答した学部もあるため、学部別に授業内容改善を促す必要性が示唆された。

2.3.2 ベストティーチャー賞選考

平成18年度に創設された「ベストティーチャー賞」は、選考方法を見直し一部改定を行い継続実施した。各学部より推薦された候補者から、審査委員会による書面審査により学長賞及び優秀賞の選出を行った。学長賞は、三井真一(保健学研究科・教授)、板橋 英之(理工学府・教授)及び山崎 浩一(理工学府・教授)の3名が受賞し、令和元年9月2日に学長賞受賞者による公開模擬授業を実施した。

公開模擬授業は荒牧キャンパスで実施し、桐生、太田及び昭和キャンパスには同時中継を行い全学部教職員の参加を図った。

2.3.3 第10回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」

平成21年度より実施している全学FD連続講演会を引き続き開催した。本年度は、愛媛大学学長補佐、教育・学生支援機構教育企画室長、医学部教授小林直人先生をお招きしてアクティブラーニングについて、模擬授業も交えてご講演をいただいた。

テーマは「今こそ問われています -アクティブラーニングとは何なののでしょうか?-」

として、アクティブラーニングの要素を取り入れた授業には幅広い内容が含まれることを改めて解説いただいた。また模擬授業を通して、アクティブラーニングを授業に導入するための具体的方法及び導入する際の問題点について解説をいただいた。

2.3.4 教員を対象とした英語授業のための研修について

英語による授業展開を推進するため、専門の民間企業による研修会を理工学部教員8名を対象に、12月25日、26日の2日間で実施した。参加者のアンケートから好評な結果が得られたため、次年度以降の継続開催について検討することとした。

資料

1. 平成30年度授業評価「学びのリテラシー (1)」集計表
2. 平成30年度授業評価「学びのリテラシー (2)」集計表
3. 平成30年度授業評価「情報」集計表
4. 第10回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」開催案内

資料 1

平成30年度授業評価「学びのリテラシー（1）」集計表

区 分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教育学部	239 (229)	161 (168)	67.4 (73.4)
社会情報学部	102 (109)	80 (86)	78.4 (78.9)
医学部医学科	108 (112)	74 (90)	68.5 (80.4)
医学部保健学科	159 (161)	144 (145)	90.6 (90.1)
理工学部	529 (533)	490 (496)	92.6 (93.1)
合 計	1,137 (1,144)	949 (985)	83.5 (86.1)

※（ ）は昨年度の結果

※評価基準 1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」(以下 同様)

質問 1. この授業によって論理的思考力を身につけることができた。

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		合 計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
教育学部	113 (102)	70.2 (60.7)	47 (59)	29.2 (35.1)	1 (5)	0.6 (3.0)	0 (2)	0.0 (1.2)	161 (168)
社会情報学部	30 (23)	37.5 (26.7)	45 (50)	56.3 (58.1)	5 (12)	6.3 (14.0)	0 (1)	0.0 (1.2)	80 (86)
医学部医学科	20 (17)	27.0 (18.9)	39 (52)	52.7 (57.8)	12 (17)	16.2 (18.9)	3 (4)	4.1 (4.4)	74 (90)
医学部保健学科	41 (31)	28.5 (21.4)	88 (101)	61.1 (69.7)	13 (12)	9.0 (8.3)	2 (1)	1.4 (0.7)	144 (145)
理工学部	149 (130)	30.4 (26.2)	280 (293)	57.1 (59.1)	49 (59)	10.0 (11.9)	12 (14)	2.4 (2.8)	490 (496)
全 体	353 (303)	37.2 (30.8)	499 (555)	52.6 (56.3)	80 (105)	8.4 (10.7)	17 (22)	1.8 (2.2)	949 (985)

質問 2. この授業によってコミュニケーション能力を身につけることができた。

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		合 計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
教育学部	107 (101)	66.5 (60.1)	50 (54)	31.1 (32.1)	4 (11)	2.5 (6.5)	0 (2)	0.0 (1.2)	161 (168)
社会情報学部	32 (32)	40.0 (37.2)	40 (36)	50.0 (41.9)	8 (16)	10.0 (18.6)	0 (2)	0.0 (2.3)	80 (86)
医学部医学科	14 (13)	18.9 (14.4)	44 (40)	59.5 (44.4)	14 (31)	18.9 (34.4)	2 (6)	2.7 (6.7)	74 (90)
医学部保健学科	40 (32)	27.8 (22.1)	74 (87)	51.4 (60.0)	28 (22)	19.4 (15.2)	2 (4)	1.4 (2.8)	144 (145)
理工学部	166 (138)	33.9 (27.8)	240 (251)	49.0 (50.6)	68 (88)	13.9 (17.7)	16 (19)	3.3 (3.8)	490 (496)
全 体	359 (316)	37.8 (32.1)	448 (468)	47.2 (47.5)	122 (168)	12.9 (17.1)	20 (33)	2.1 (3.4)	949 (985)

質問 3. この授業によって表現力を高めることができた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	106 (105)	65.8 (62.5)	54 (54)	33.5 (32.1)	1 (7)	0.6 (4.2)	0 (2)	0.0 (1.2)	161 (168)
社会情報学部	36 (30)	45.0 (34.9)	42 (41)	52.5 (47.7)	2 (15)	2.5 (17.4)	0 (0)	0.0 (0.0)	80 (86)
医学部医学科	15 (17)	20.3 (18.9)	44 (53)	59.5 (58.9)	13 (16)	17.6 (17.8)	2 (4)	2.7 (4.4)	74 (90)
医学部保健学科	41 (29)	28.5 (20.0)	83 (97)	57.6 (66.9)	18 (18)	12.5 (12.4)	2 (1)	1.4 (0.7)	144 (145)
理工学部	129 (108)	26.3 (21.8)	273 (292)	55.7 (58.9)	79 (78)	16.1 (15.7)	9 (18)	1.8 (3.6)	490 (496)
全体	327 (289)	34.5 (29.3)	496 (537)	52.3 (54.5)	113 (134)	11.9 (13.6)	13 (25)	1.4 (2.5)	949 (985)

質問 4. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	116 (103)	72.0 (61.3)	45 (49)	28.0 (29.2)	0 (13)	0.0 (7.7)	0 (3)	0.0 (1.8)	161 (168)
社会情報学部	43 (43)	53.8 (50.0)	35 (36)	43.8 (41.9)	2 (7)	2.5 (8.1)	0 (0)	0.0 (0.0)	80 (86)
医学部医学科	36 (36)	48.6 (40.0)	37 (49)	50.0 (54.4)	1 (5)	1.4 (5.6)	0 (0)	0.0 (0.0)	74 (90)
医学部保健学科	85 (82)	59.0 (56.6)	55 (59)	38.2 (40.7)	3 (4)	2.1 (2.8)	1 (0)	0.7 (0.0)	144 (145)
理工学部	227 (184)	46.3 (37.1)	229 (257)	46.7 (51.8)	29 (46)	5.9 (9.3)	5 (9)	1.0 (1.8)	490 (496)
全体	507 (448)	53.4 (45.5)	401 (450)	42.3 (45.7)	35 (75)	3.7 (7.6)	6 (12)	0.6 (1.2)	949 (985)

質問 5. この授業で情報収集や引用の方法について学ぶことができた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	119 (116)	73.9 (69.0)	42 (41)	26.1 (24.4)	0 (8)	0.0 (4.8)	0 (3)	0.0 (1.8)	161 (168)
社会情報学部	41 (38)	51.3 (44.2)	34 (39)	42.5 (45.3)	5 (8)	6.3 (9.3)	0 (1)	0.0 (1.2)	80 (86)
医学部医学科	39 (42)	52.7 (46.7)	31 (46)	41.9 (51.1)	4 (2)	5.4 (2.2)	0 (0)	0.0 (0.0)	74 (90)
医学部保健学科	89 (87)	61.8 (60.0)	51 (55)	35.4 (37.9)	3 (3)	2.1 (2.1)	1 (0)	0.7 (0.0)	144 (145)
理工学部	198 (163)	40.4 (32.9)	246 (276)	50.2 (55.6)	42 (48)	8.6 (9.7)	4 (9)	0.8 (1.8)	490 (496)
全体	486 (446)	51.2 (45.3)	404 (457)	42.6 (46.4)	54 (69)	5.7 (7.0)	5 (13)	0.5 (1.3)	949 (985)

質問 6. この授業で大学での学習方法を修得できた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	92 (78)	57.1 (46.4)	60 (72)	37.3 (42.9)	9 (15)	5.6 (8.9)	0 (3)	0.0 (1.8)	161 (168)
社会情報学部	27 (19)	33.8 (22.1)	43 (57)	53.8 (66.3)	10 (8)	12.5 (9.3)	0 (2)	0.0 (2.3)	80 (86)
医学部医学科	19 (16)	25.7 (17.8)	37 (48)	50.0 (53.3)	15 (20)	20.3 (22.2)	3 (6)	4.1 (6.7)	74 (90)
医学部保健学科	38 (26)	26.4 (17.9)	81 (84)	56.3 (57.9)	24 (33)	16.7 (22.8)	1 (2)	0.7 (1.4)	144 (145)
理工学部	134 (116)	27.3 (23.4)	246 (265)	50.2 (53.4)	95 (96)	19.4 (19.4)	15 (19)	3.1 (3.8)	490 (496)
全体	310 (255)	32.7 (25.9)	467 (526)	49.2 (53.4)	153 (172)	16.1 (17.5)	19 (32)	2.0 (3.2)	949 (985)

質問 7. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	108 (101)	67.1 (60.1)	51 (56)	31.7 (33.3)	2 (9)	1.2 (5.4)	0 (2)	0.0 (1.2)	161 (168)
社会情報学部	33 (25)	41.3 (29.1)	39 (47)	48.8 (54.7)	7 (12)	8.8 (14.0)	1 (2)	1.3 (2.3)	80 (86)
医学部医学科	13 (15)	17.6 (16.7)	36 (42)	48.6 (46.7)	17 (25)	23.0 (27.8)	8 (8)	10.8 (8.9)	74 (90)
医学部保健学科	42 (28)	29.2 (19.3)	77 (96)	53.5 (66.2)	23 (20)	16.0 (13.8)	2 (1)	1.4 (0.7)	144 (145)
理工学部	121 (109)	24.7 (22.0)	259 (259)	52.9 (52.2)	91 (101)	18.6 (20.4)	19 (27)	3.9 (5.4)	490 (496)
全体	317 (278)	33.4 (28.2)	462 (500)	48.7 (50.8)	140 (167)	14.8 (17.0)	30 (40)	3.2 (4.1)	949 (985)

質問 8. 教室での討論は活発であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	102 (90)	63.4 (53.6)	52 (60)	32.3 (35.7)	7 (15)	4.3 (8.9)	0 (3)	0.0 (1.8)	161 (168)
社会情報学部	26 (24)	32.5 (27.9)	37 (35)	46.3 (40.7)	13 (24)	16.3 (27.9)	4 (3)	5.0 (3.5)	80 (86)
医学部医学科	17 (14)	23.0 (15.6)	39 (40)	52.7 (44.4)	15 (29)	20.3 (32.2)	3 (7)	4.1 (7.8)	74 (90)
医学部保健学科	38 (33)	26.4 (22.8)	78 (84)	54.2 (57.9)	24 (28)	16.7 (19.3)	4 (0)	2.8 (0.0)	144 (145)
理工学部	133 (115)	27.1 (23.2)	241 (250)	49.2 (50.4)	95 (107)	19.4 (21.6)	21 (24)	4.3 (4.8)	490 (496)
全体	316 (276)	33.3 (28.0)	447 (469)	47.1 (47.6)	154 (203)	16.2 (20.6)	32 (37)	3.4 (3.8)	949 (985)

質問 9. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	122 (120)	75.8 (71.4)	36 (42)	22.4 (25.0)	3 (4)	1.9 (2.4)	0 (2)	0.0 (1.2)	161 (168)
社会情報学部	34 (32)	42.5 (37.2)	36 (41)	45.0 (47.7)	9 (12)	11.3 (14.0)	1 (1)	1.3 (1.2)	80 (86)
医学部医学科	19 (14)	25.7 (15.6)	34 (52)	45.9 (57.8)	17 (18)	23.0 (20.0)	4 (6)	5.4 (6.7)	74 (90)
医学部保健学科	61 (60)	42.4 (41.4)	65 (71)	45.1 (49.0)	15 (13)	10.4 (9.0)	3 (1)	2.1 (0.7)	144 (145)
理工学部	155 (137)	31.6 (27.6)	227 (256)	46.3 (51.6)	84 (82)	17.1 (16.5)	24 (21)	4.9 (4.2)	490 (496)
全体	391 (363)	41.2 (36.9)	398 (462)	41.9 (46.9)	128 (129)	13.5 (13.1)	32 (31)	3.4 (3.1)	949 (985)

質問10. 宿題(課題)の内容や量は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	87 (86)	54.0 (51.2)	55 (65)	34.2 (38.7)	18 (15)	11.2 (8.9)	1 (2)	0.6 (1.2)	161 (168)
社会情報学部	35 (43)	43.8 (50.0)	34 (31)	42.5 (36.0)	8 (10)	10.0 (11.6)	3 (2)	3.8 (2.3)	80 (86)
医学部医学科	7 (16)	9.5 (17.8)	42 (34)	56.8 (37.8)	19 (30)	25.7 (33.3)	6 (10)	8.1 (11.1)	74 (90)
医学部保健学科	50 (30)	34.7 (20.7)	70 (87)	48.6 (60.0)	19 (26)	13.2 (17.9)	5 (2)	3.5 (1.4)	144 (145)
理工学部	133 (125)	27.1 (25.2)	253 (238)	51.6 (48.0)	76 (104)	15.5 (21.0)	28 (29)	5.7 (5.8)	490 (496)
全体	312 (300)	32.9 (30.5)	454 (455)	47.8 (46.2)	140 (185)	14.8 (18.8)	43 (45)	4.5 (4.6)	949 (985)

質問11. グループワークの人数(グループワークを実施しなかった場合はクラスの数)は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	134 (134)	83.2 (79.8)	25 (31)	15.5 (18.5)	2 (3)	1.2 (1.8)	0 (0)	0.0 (0.0)	161 (168)
社会情報学部	57 (54)	71.3 (62.8)	20 (27)	25.0 (31.4)	3 (5)	3.8 (5.8)	0 (0)	0.0 (0.0)	80 (86)
医学部医学科	40 (38)	54.1 (42.2)	30 (45)	40.5 (50.0)	3 (6)	4.1 (6.7)	1 (1)	1.4 (1.1)	74 (90)
医学部保健学科	99 (93)	68.8 (64.1)	37 (46)	25.7 (31.7)	6 (6)	4.2 (4.1)	2 (0)	1.4 (0.0)	144 (145)
理工学部	296 (245)	60.4 (49.4)	159 (209)	32.4 (42.1)	27 (33)	5.5 (6.7)	8 (9)	1.6 (1.8)	490 (496)
全体	626 (564)	66.0 (57.3)	271 (358)	28.6 (36.3)	41 (53)	4.3 (5.4)	11 (10)	1.2 (1.0)	949 (985)

質問12. 学部の専門教育を学ぶために必要な授業内容であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	114 (96)	70.8 (57.1)	40 (57)	24.8 (33.9)	6 (11)	3.7 (6.5)	1 (4)	0.6 (2.4)	161 (168)
社会情報学部	19 (21)	23.8 (24.4)	47 (46)	58.8 (53.5)	12 (16)	15.0 (18.6)	2 (3)	2.5 (3.5)	80 (86)
医学部医学科	18 (25)	24.3 (27.8)	39 (46)	52.7 (51.1)	12 (15)	16.2 (16.7)	5 (4)	6.8 (4.4)	74 (90)
医学部保健学科	61 (42)	42.4 (29.0)	62 (83)	43.1 (57.2)	18 (20)	12.5 (13.8)	3 (0)	2.1 (0.0)	144 (145)
理工学部	185 (174)	37.8 (35.1)	221 (232)	45.1 (46.8)	71 (74)	14.5 (14.9)	13 (16)	2.7 (3.2)	490 (496)
全体	397 (358)	41.8 (36.3)	409 (464)	43.1 (47.1)	119 (136)	12.5 (13.8)	24 (27)	2.5 (2.7)	949 (985)

質問13. 自分はこの授業に積極的に取り組んだ。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	105 (112)	65.2 (66.7)	54 (51)	33.5 (30.4)	2 (3)	1.2 (1.8)	0 (2)	0.0 (1.2)	161 (168)
社会情報学部	38 (40)	47.5 (46.5)	38 (42)	47.5 (48.8)	4 (3)	5.0 (3.5)	0 (1)	0.0 (1.2)	80 (86)
医学部医学科	26 (25)	35.1 (27.8)	35 (58)	47.3 (64.4)	11 (7)	14.9 (7.8)	2 (0)	2.7 (0.0)	74 (90)
医学部保健学科	73 (61)	50.7 (42.1)	63 (73)	43.8 (50.3)	7 (9)	4.9 (6.2)	1 (2)	0.7 (1.4)	144 (145)
理工学部	217 (184)	44.3 (37.1)	234 (250)	47.8 (50.4)	34 (58)	6.9 (11.7)	5 (4)	1.0 (0.8)	490 (496)
全体	459 (422)	48.4 (42.8)	424 (474)	44.7 (48.1)	58 (80)	6.1 (8.1)	8 (9)	0.8 (0.9)	949 (985)

質問14. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	98 (97)	60.9 (57.7)	60 (64)	37.3 (38.1)	2 (5)	1.2 (3.0)	1 (2)	0.6 (1.2)	161 (168)
社会情報学部	41 (39)	51.3 (45.3)	38 (44)	47.5 (51.2)	1 (2)	1.3 (2.3)	0 (1)	0.0 (1.2)	80 (86)
医学部医学科	24 (27)	32.4 (30.0)	47 (56)	63.5 (62.2)	2 (5)	2.7 (5.6)	1 (2)	1.4 (2.2)	74 (90)
医学部保健学科	71 (63)	49.3 (43.4)	71 (76)	49.3 (52.4)	2 (6)	1.4 (4.1)	0 (0)	0.0 (0.0)	144 (145)
理工学部	220 (166)	44.9 (33.5)	235 (291)	48.0 (58.7)	33 (29)	6.7 (5.8)	2 (10)	0.4 (2.0)	490 (496)
全体	454 (392)	47.8 (39.8)	451 (531)	47.5 (53.9)	40 (47)	4.2 (4.8)	4 (15)	0.4 (1.5)	949 (985)

質問15. この授業は教員による一方的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加(例えば、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど)を取り入れた授業(アクティブ・ラーニング)であった。

区 分	「1」		「2」		合 計
	人数	%	人数	%	人数
教育学部	158 (159)	98.1 (94.6)	3 (9)	1.9 (5.4)	161 (168)
社会情報学部	75 (85)	93.8 (98.8)	5 (1)	6.3 (1.2)	80 (86)
医学部医学科	70 (73)	94.6 (81.1)	4 (17)	5.4 (18.9)	74 (90)
医学部保健学科	142 (142)	98.6 (97.9)	2 (3)	1.4 (2.1)	144 (145)
理工学部	456 (451)	93.1 (90.9)	34 (45)	6.9 (9.1)	490 (496)
全 体	901 (910)	94.9 (92.4)	48 (75)	5.1 (7.6)	949 (985)

※評価基準 1「あてはまる」 2「あてはまらない」

資料2

平成30年度授業評価「学びのリテラシー（2）」集計表

区 分	対象者数	回答者数	回答率 (%)
教育学部	241 (230)	106 (124)	44.0 (53.9)
社会情報学部	103 (113)	65 (75)	63.1 (66.4)
医学部医学科	108 (113)	41 (70)	38.0 (61.9)
医学部保健学科	160 (160)	122 (99)	76.3 (61.9)
理工学部	526 (534)	362 (441)	68.8 (82.6)
合 計	1,138 (1,150)	696 (809)	61.2 (70.3)

※ ()は昨年度の結果

※評価基準 1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」
(以下 同様)

質問 1. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		合 計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
教育学部	71 (66)	67.0 (53.2)	30 (42)	28.3 (33.9)	4 (12)	3.8 (9.7)	1 (4)	0.9 (3.2)	106 (124)
社会情報学部	29 (30)	44.6 (40.0)	29 (39)	44.6 (52.0)	5 (6)	7.7 (8.0)	2 (0)	3.1 (0.0)	65 (75)
医学部医学科	31 (31)	75.6 (44.3)	7 (29)	17.1 (41.4)	1 (9)	2.4 (12.9)	2 (1)	4.9 (1.4)	41 (70)
医学部保健学科	63 (52)	51.6 (52.5)	54 (42)	44.3 (42.4)	2 (2)	1.6 (2.0)	3 (3)	2.5 (3.0)	122 (99)
理工学部	204 (206)	56.4 (46.7)	139 (193)	38.4 (43.8)	16 (35)	4.4 (7.9)	3 (7)	0.8 (1.6)	362 (441)
全 体	398 (385)	57.2 (47.6)	259 (345)	37.2 (42.6)	28 (64)	4.0 (7.9)	11 (15)	1.6 (1.9)	696 (809)

質問 2. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区 分	「1」		「2」		「3」		「4」		合 計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
教育学部	66 (67)	62.3 (54.0)	35 (51)	33.0 (41.1)	4 (3)	3.8 (2.4)	1 (3)	0.9 (2.4)	106 (124)
社会情報学部	38 (37)	58.5 (49.3)	22 (33)	33.8 (44.0)	5 (5)	7.7 (6.7)	0 (0)	0.0 (0.0)	65 (75)
医学部医学科	28 (39)	68.3 (55.7)	10 (29)	24.4 (41.4)	1 (1)	2.4 (1.4)	2 (1)	4.9 (1.4)	41 (70)
医学部保健学科	74 (53)	60.7 (53.5)	44 (39)	36.1 (39.4)	3 (6)	2.5 (6.1)	1 (1)	0.8 (1.0)	122 (99)
理工学部	198 (234)	54.7 (53.1)	143 (187)	39.5 (42.4)	17 (18)	4.7 (4.1)	4 (2)	1.1 (0.5)	362 (441)
全 体	404 (430)	58.0 (53.2)	254 (339)	36.5 (41.9)	30 (33)	4.3 (4.1)	8 (7)	1.1 (0.9)	696 (809)

質問 3. 教室での討論は活発であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	57 (48)	53.8 (38.7)	21 (38)	19.8 (30.6)	17 (22)	16.0 (17.7)	11 (16)	10.4 (12.9)	106 (124)
社会情報学部	37 (25)	56.9 (33.3)	21 (31)	32.3 (41.3)	6 (13)	9.2 (17.3)	1 (6)	1.5 (8.0)	65 (75)
医学部医学科	11 (20)	26.8 (28.6)	14 (23)	34.1 (32.9)	9 (17)	22.0 (24.3)	7 (10)	17.1 (14.3)	41 (70)
医学部保健学科	55 (25)	45.1 (25.3)	35 (33)	28.7 (33.3)	23 (19)	18.9 (19.2)	9 (22)	7.4 (22.2)	122 (99)
理工学部	148 (152)	40.9 (34.5)	127 (161)	35.1 (36.5)	67 (85)	18.5 (19.3)	20 (43)	5.5 (9.8)	362 (441)
全体	308 (270)	44.3 (33.4)	218 (286)	31.3 (35.4)	122 (156)	17.5 (19.3)	48 (97)	6.9 (12.0)	696 (809)

質問 4. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	58 (66)	54.7 (53.2)	27 (23)	25.5 (18.5)	17 (25)	16.0 (20.2)	4 (10)	3.8 (8.1)	106 (124)
社会情報学部	38 (36)	58.5 (48.0)	21 (21)	32.3 (28.0)	5 (14)	7.7 (18.7)	1 (4)	1.5 (5.3)	65 (75)
医学部医学科	21 (23)	51.2 (32.9)	7 (25)	17.1 (35.7)	7 (14)	17.1 (20.0)	6 (8)	14.6 (11.4)	41 (70)
医学部保健学科	59 (41)	48.4 (41.4)	33 (28)	27.0 (28.3)	20 (15)	16.4 (15.2)	10 (15)	8.2 (15.2)	122 (99)
理工学部	199 (207)	55.0 (46.9)	97 (145)	26.8 (32.9)	52 (63)	14.4 (14.3)	14 (26)	3.9 (5.9)	362 (441)
全体	375 (373)	53.9 (46.1)	185 (242)	26.6 (29.9)	101 (131)	14.5 (16.2)	35 (63)	5.0 (7.8)	696 (809)

質問 5. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	44 (50)	41.5 (40.3)	40 (42)	37.7 (33.9)	11 (20)	10.4 (16.1)	11 (12)	10.4 (9.7)	106 (124)
社会情報学部	23 (18)	35.4 (24.0)	31 (35)	47.7 (46.7)	10 (16)	15.4 (21.3)	1 (6)	1.5 (8.0)	65 (75)
医学部医学科	13 (16)	31.7 (22.9)	14 (34)	34.1 (48.6)	8 (12)	19.5 (17.1)	6 (8)	14.6 (11.4)	41 (70)
医学部保健学科	39 (29)	32.0 (29.3)	53 (40)	43.4 (40.4)	13 (15)	10.7 (15.2)	17 (15)	13.9 (15.2)	122 (99)
理工学部	138 (163)	38.1 (37.0)	145 (173)	40.1 (39.2)	63 (79)	17.4 (17.9)	16 (26)	4.4 (5.9)	362 (441)
全体	257 (276)	36.9 (34.1)	283 (324)	40.7 (40.0)	105 (142)	15.1 (17.6)	51 (67)	7.3 (8.3)	696 (809)

質問 6. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生との対応は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	74 (86)	69.8 (69.4)	32 (35)	30.2 (28.2)	0 (2)	0.0 (1.6)	0 (1)	0.0 (0.8)	106 (124)
社会情報学部	39 (43)	60.0 (57.3)	22 (26)	33.8 (34.7)	3 (5)	4.6 (6.7)	1 (1)	1.5 (1.3)	65 (75)
医学部医学科	28 (37)	68.3 (52.9)	12 (29)	29.3 (41.4)	0 (2)	0.0 (2.9)	1 (2)	2.4 (2.9)	41 (70)
医学部保健学科	82 (61)	67.2 (61.6)	36 (34)	29.5 (34.3)	4 (4)	3.3 (4.0)	0 (0)	0.0 (0.0)	122 (99)
理工学部	240 (274)	66.3 (62.1)	104 (146)	28.7 (33.1)	17 (19)	4.7 (4.3)	1 (2)	0.3 (0.5)	362 (441)
全体	463 (501)	66.5 (61.9)	206 (270)	29.6 (33.4)	24 (32)	3.4 (4.0)	3 (6)	0.4 (0.7)	696 (809)

質問 7. 希望した科目を選ぶことができた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	68 (50)	64.2 (40.3)	29 (37)	27.4 (29.8)	7 (24)	6.6 (19.4)	2 (13)	1.9 (10.5)	106 (124)
社会情報学部	38 (28)	58.5 (37.3)	21 (28)	32.3 (37.3)	4 (13)	6.2 (17.3)	2 (6)	3.1 (8.0)	65 (75)
医学部医学科	33 (27)	80.5 (38.6)	6 (28)	14.6 (40.0)	1 (8)	2.4 (11.4)	1 (7)	2.4 (10.0)	41 (70)
医学部保健学科	87 (47)	71.3 (47.5)	20 (38)	16.4 (38.4)	8 (9)	6.6 (9.1)	7 (5)	5.7 (5.1)	122 (99)
理工学部	239 (179)	66.0 (40.6)	89 (155)	24.6 (35.1)	23 (79)	6.4 (17.9)	11 (28)	3.0 (6.3)	362 (441)
全体	465 (331)	66.8 (40.9)	165 (286)	23.7 (35.4)	43 (133)	6.2 (16.4)	23 (59)	3.3 (7.3)	696 (809)

質問 8. クラスの人数は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	91 (93)	85.8 (75.0)	14 (26)	13.2 (21.0)	1 (4)	0.9 (3.2)	0 (1)	0.0 (0.8)	106 (124)
社会情報学部	46 (53)	70.8 (70.7)	15 (22)	23.1 (29.3)	3 (0)	4.6 (0.0)	1 (0)	1.5 (0.0)	65 (75)
医学部医学科	37 (40)	90.2 (57.1)	3 (24)	7.3 (34.3)	0 (4)	0.0 (5.7)	1 (2)	2.4 (2.9)	41 (70)
医学部保健学科	99 (76)	81.1 (76.8)	20 (19)	16.4 (19.2)	2 (3)	1.6 (3.0)	1 (1)	0.8 (1.0)	122 (99)
理工学部	284 (283)	78.5 (64.2)	69 (145)	19.1 (32.9)	8 (11)	2.2 (2.5)	1 (2)	0.3 (0.5)	362 (441)
全体	557 (545)	80.0 (67.4)	121 (236)	17.4 (29.2)	14 (22)	2.0 (2.7)	4 (6)	0.6 (0.7)	696 (809)

質問 9. 教室の環境は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	77 (79)	72.6 (63.7)	20 (32)	18.9 (25.8)	7 (9)	6.6 (7.3)	2 (4)	1.9 (3.2)	106 (124)
社会情報学部	41 (44)	63.1 (58.7)	20 (25)	30.8 (33.3)	1 (4)	1.5 (5.3)	3 (2)	4.6 (2.7)	65 (75)
医学部医学科	30 (37)	73.2 (52.9)	8 (25)	19.5 (35.7)	1 (7)	2.4 (10.0)	2 (1)	4.9 (1.4)	41 (70)
医学部保健学科	79 (65)	64.8 (65.7)	35 (29)	28.7 (29.3)	6 (4)	4.9 (4.0)	2 (1)	1.6 (1.0)	122 (99)
理工学部	256 (261)	70.7 (59.2)	89 (140)	24.6 (31.7)	17 (32)	4.7 (7.3)	0 (8)	0.0 (1.8)	362 (441)
全体	483 (486)	69.4 (60.1)	172 (251)	24.7 (31.0)	32 (56)	4.6 (6.9)	9 (16)	1.3 (2.0)	696 (809)

質問 10. この授業は教員による一方的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加（例えば、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど）を取り入れた授業（アクティブ・ラーニング）であった。

区分	「1」		「2」		合計
	人数	%	人数	%	人数
教育学部	89 (99)	84.0 (79.8)	17 (25)	16.0 (20.2)	106 (124)
社会情報学部	62 (64)	95.4 (85.3)	3 (11)	4.6 (14.7)	65 (75)
医学部医学科	29 (52)	70.7 (74.3)	12 (18)	29.3 (25.7)	41 (70)
医学部保健学科	99 (71)	81.1 (71.7)	23 (28)	18.9 (28.3)	122 (99)
理工学部	315 (362)	87.0 (82.1)	47 (79)	13.0 (17.9)	362 (441)
全体	594 (648)	85.3 (80.1)	102 (161)	14.7 (19.9)	696 (809)

※評価基準 1「あてはまる」 2「あてはまらない」

資料3

平成30年度授業評価「情報」集計表

区分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教育学部	244 (231)	152 (150)	62.3 (64.9)
社会情報学部	103 (112)	84 (89)	81.6 (79.5)
医学部医学科	105 (109)	67 (98)	63.8 (89.9)
医学部保健学科	159 (161)	118 (99)	74.2 (61.5)
理工学部	536 (536)	485 (503)	90.5 (93.8)
合計	1,147 (1,149)	906 (939)	79.0 (81.7)

※ ()は昨年度の結果

※評価基準 1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」(以下 同様)

あなたが本年度受講した「情報」の授業についてお尋ねします。

質問 1. コンピュータやインターネットの基礎知識を修得できた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	108 (87)	71.1 (58.0)	39 (57)	25.7 (38.0)	4 (6)	2.6 (4.0)	1 (0)	0.7 (0.0)	152 (150)
社会情報学部	36 (37)	42.9 (41.6)	41 (43)	48.8 (48.3)	7 (9)	8.3 (10.1)	0 (0)	0.0 (0.0)	84 (89)
医学部医学科	25 (27)	37.3 (27.6)	33 (62)	49.3 (63.3)	9 (9)	13.4 (9.2)	0 (0)	0.0 (0.0)	67 (98)
医学部保健学科	65 (49)	55.1 (49.5)	47 (44)	39.8 (44.4)	4 (6)	3.4 (6.1)	2 (0)	1.7 (0.0)	118 (99)
理工学部	215 (213)	44.3 (42.3)	242 (244)	49.9 (48.5)	24 (35)	4.9 (7.0)	4 (11)	0.8 (2.2)	485 (503)
全体	449 (413)	49.6 (44.0)	402 (450)	44.4 (47.9)	48 (65)	5.3 (6.9)	7 (11)	0.8 (1.2)	906 (939)

質問 2. コンピュータの活用能力を高めることができた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	98 (79)	64.5 (52.7)	52 (60)	34.2 (40.0)	1 (8)	0.7 (5.3)	1 (3)	0.7 (2.0)	152 (150)
社会情報学部	34 (45)	40.5 (50.6)	44 (40)	52.4 (44.9)	6 (4)	7.1 (4.5)	0 (0)	0.0 (0.0)	84 (89)
医学部医学科	27 (31)	40.3 (31.6)	38 (58)	56.7 (59.2)	2 (9)	3.0 (9.2)	0 (0)	0.0 (0.0)	67 (98)
医学部保健学科	57 (53)	48.3 (53.5)	55 (37)	46.6 (37.4)	4 (8)	3.4 (8.1)	2 (1)	1.7 (1.0)	118 (99)
理工学部	241 (231)	49.7 (45.9)	223 (221)	46.0 (43.9)	14 (37)	2.9 (7.4)	7 (14)	1.4 (2.8)	485 (503)
全体	457 (439)	50.4 (46.8)	412 (416)	45.5 (44.3)	27 (66)	3.0 (7.0)	10 (18)	1.1 (1.9)	906 (939)

質問 3. 情報倫理に関する知識・態度を身につけることができた。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	99 (81)	65.1 (54.0)	50 62	32.9 (41.3)	3 (7)	2.0 (4.7)	0 (0)	0.0 (0.0)	152 (150)
社会情報学部	38 (35)	45.2 (39.3)	40 (45)	47.6 (50.6)	6 (9)	7.1 (10.1)	0 (0)	0.0 (0.0)	84 (89)
医学部医学科	22 (34)	32.8 (34.7)	39 (54)	58.2 (55.1)	6 (9)	9.0 (9.2)	0 (1)	0.0 (1.0)	67 (98)
医学部保健学科	51 (42)	43.2 (42.4)	59 (48)	50.0 (48.5)	7 (8)	5.9 (8.1)	1 (1)	0.8 (1.0)	118 (99)
理工学部	196 (192)	40.4 (38.2)	258 (262)	53.2 (52.1)	24 (41)	4.9 (8.2)	7 (8)	1.4 (1.6)	485 (503)
全体	406 (384)	44.8 (40.9)	446 (471)	49.2 (50.2)	46 (74)	5.1 (7.9)	8 (10)	0.9 (1.1)	906 (939)

質問 4. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	67 (48)	44.1 (32.0)	62 (73)	40.8 (48.7)	20 (24)	13.2 (16.0)	3 (5)	2.0 (3.3)	152 (150)
社会情報学部	19 (18)	22.6 (20.2)	38 (40)	45.2 (44.9)	19 (24)	22.6 (27.0)	8 (7)	9.5 (7.9)	84 (89)
医学部医学科	14 (18)	20.9 (18.4)	28 (45)	41.8 (45.9)	22 (31)	32.8 (31.6)	3 (4)	4.5 (4.1)	67 (98)
医学部保健学科	40 (24)	33.9 (24.2)	59 (50)	50.0 (50.5)	14 (19)	11.9 (19.2)	5 (6)	4.2 (6.1)	118 (99)
理工学部	146 (157)	30.1 (31.2)	232 (226)	47.8 (44.9)	88 (92)	18.1 (18.3)	19 (28)	3.9 (5.6)	485 (503)
全体	286 (265)	31.6 (28.2)	419 (434)	46.2 (46.2)	163 (190)	18.0 (20.2)	38 (50)	4.2 (5.3)	906 (939)

質問 5. シラバスの記述は、授業の進行に沿った適切なものであった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	84 (67)	55.3 (44.7)	64 (74)	42.1 (49.3)	3 (7)	2.0 (4.7)	1 (2)	0.7 (1.3)	152 (150)
社会情報学部	38 (33)	45.2 (37.1)	42 (51)	50.0 (57.3)	4 (4)	4.8 (4.5)	0 (1)	0.0 (1.1)	84 (89)
医学部医学科	22 (27)	32.8 (27.6)	44 (65)	65.7 (66.3)	1 (5)	1.5 (5.1)	0 (1)	0.0 (1.0)	67 (98)
医学部保健学科	60 (51)	50.8 (51.5)	53 (41)	44.9 (41.4)	4 (5)	3.4 (5.1)	1 (2)	0.8 (2.0)	118 (99)
理工学部	206 (182)	42.5 (36.2)	246 (271)	50.7 (53.9)	27 (40)	5.6 (8.0)	6 (10)	1.2 (2.0)	485 (503)
全体	410 (360)	45.3 (38.3)	449 (502)	49.6 (53.5)	39 (61)	4.3 (6.5)	8 (16)	0.9 (1.7)	906 (939)

質問 6. 教員やTAの教え方は、よく配慮されており適切なものであった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	77 (53)	50.7 (35.3)	55 (70)	36.2 (46.7)	14 (23)	9.2 (15.3)	6 (4)	3.9 (2.7)	152 (150)
社会情報学部	22 (12)	26.2 (13.5)	32 (49)	38.1 (55.1)	26 (26)	31.0 (29.2)	4 (2)	4.8 (2.2)	84 (89)
医学部医学科	20 (26)	29.9 (26.5)	37 (50)	55.2 (51.0)	7 (21)	10.4 (21.4)	3 (1)	4.5 (1.0)	67 (98)
医学部保健学科	51 (34)	43.2 (34.3)	53 (45)	44.9 (45.5)	11 (16)	9.3 (16.2)	3 (4)	2.5 (4.0)	118 (99)
理工学部	177 (155)	36.5 (30.8)	217 (238)	44.7 (47.3)	70 (77)	14.4 (15.3)	21 (33)	4.3 (6.6)	485 (503)
全体	347 (280)	38.3 (29.8)	394 (452)	43.5 (48.1)	128 (163)	14.1 (17.4)	37 (44)	4.1 (4.7)	906 (939)

質問 7. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	91 (72)	59.9 (48.0)	51 (62)	33.6 (41.3)	8 (15)	5.3 (10.0)	2 (1)	1.3 (0.7)	152 (150)
社会情報学部	27 (38)	32.1 (42.7)	38 (43)	45.2 (48.3)	15 (7)	17.9 (7.9)	4 (1)	4.8 (1.1)	84 (89)
医学部医学科	23 (39)	34.3 (39.8)	37 (53)	55.2 (54.1)	4 (6)	6.0 (6.1)	3 (0)	4.5 (0.0)	67 (98)
医学部保健学科	75 (56)	63.6 (56.6)	37 (38)	31.4 (38.4)	5 (5)	4.2 (5.1)	1 (0)	0.8 (0.0)	118 (99)
理工学部	191 (187)	39.4 (37.2)	234 (247)	48.2 (49.1)	52 (52)	10.7 (10.3)	8 (17)	1.6 (3.4)	485 (503)
全体	407 (392)	44.9 (41.7)	397 (443)	43.8 (47.2)	84 (85)	9.3 (9.1)	18 (19)	2.0 (2.0)	906 (939)

質問 8. クラスの人数は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	114 (100)	75.0 (66.7)	32 (49)	21.1 (32.7)	3 (0)	2.0 (0.0)	3 (1)	2.0 (0.7)	152 (150)
社会情報学部	46 (46)	54.8 (51.7)	26 (37)	31.0 (41.6)	10 (6)	11.9 (6.7)	2 (0)	2.4 (0.0)	84 (89)
医学部医学科	37 (48)	55.2 (49.0)	25 (43)	37.3 (43.9)	3 (5)	4.5 (5.1)	2 (2)	3.0 (2.0)	67 (98)
医学部保健学科	85 (75)	72.0 (75.8)	26 (19)	22.0 (19.2)	5 (5)	4.2 (5.1)	2 (0)	1.7 (0.0)	118 (99)
理工学部	277 (233)	57.1 (46.3)	171 (214)	35.3 (42.5)	31 (46)	6.4 (9.1)	6 (10)	1.2 (2.0)	485 (503)
全体	559 (502)	61.7 (53.5)	280 (362)	30.9 (38.6)	52 (62)	5.7 (6.6)	15 (13)	1.7 (1.4)	906 (939)

質問 9. 教室の環境は適切であった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	114 (95)	75.0 (63.3)	35 (50)	23.0 (33.3)	2 (4)	1.3 (2.7)	1 (1)	0.7 (0.7)	152 (150)
社会情報学部	34 (43)	40.5 (48.3)	40 (34)	47.6 (38.2)	6 (11)	7.1 (12.4)	4 (1)	4.8 (1.1)	84 (89)
医学部医学科	42 (51)	62.7 (52.0)	24 (37)	35.8 (37.8)	1 (8)	1.5 (8.2)	0 (2)	0.0 (2.0)	67 (98)
医学部保健学科	93 (72)	78.8 (72.7)	22 (26)	18.6 (26.3)	2 (1)	1.7 (1.0)	1 (0)	0.8 (0.0)	118 (99)
理工学部	283 (220)	58.4 (43.7)	163 (224)	33.6 (44.5)	32 (48)	6.6 (9.5)	7 (11)	1.4 (2.2)	485 (503)
全体	566 (481)	62.5 (51.2)	284 (371)	31.3 (39.5)	43 (72)	4.7 (7.7)	13 (15)	1.4 (1.6)	906 (939)

質問10. もっと高度な内容を学びたかった。

区分	「1」		「2」		「3」		「4」		合計
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
教育学部	24 (19)	15.8 (12.7)	26 (33)	17.1 (22.0)	66 (61)	43.4 (40.7)	36 (37)	23.7 (24.7)	152 (150)
社会情報学部	7 (8)	8.3 (9.0)	16 (21)	19.0 (23.6)	41 (41)	48.8 (46.1)	20 (19)	23.8 (21.3)	84 (89)
医学部医学科	4 (10)	6.0 (10.2)	19 (17)	28.4 (17.3)	29 (47)	43.3 (48.0)	15 (24)	22.4 (24.5)	67 (98)
医学部保健学科	12 (11)	10.2 (11.1)	25 (17)	21.2 (17.2)	51 (46)	43.2 (46.5)	30 (25)	25.4 (25.3)	118 (99)
理工学部	69 (106)	14.2 (21.1)	127 (172)	26.2 (34.2)	231 (171)	47.6 (34.0)	58 (54)	12.0 (10.7)	485 (503)
全体	116 (154)	12.8 (16.4)	213 (260)	23.5 (27.7)	418 (366)	46.1 (39.0)	159 (159)	17.5 (16.9)	906 (939)

第10回全学FD連続講演会

「大学教育のグランドデザイン」の開催について

この全学FD連続講演会は、平成21年度から毎年開催しているものです。

今回は、愛媛大学学長特別補佐，教育・学生支援機構教育企画室長 小林直人氏をお招きして、アクティブラーニングについて模擬授業を交えご講演いただきます。

全学FD・SDの一環として開催しますので、ぜひ参加してください。

記

日時 平成30年12月21日（金）14時20分～15時50分

場所 群馬大学事務局棟5階 大会議室（荒牧キャンパス）

テーマ 今こそ問われています「アクティブラーニングとは何なのでしょう？」

大学に限らず、初等中等教育でも、「アクティブラーニングの必要性」が叫ばれてから随分経ちました。しかしながら、そもそもアクティブラーニングとは何なのか、という問いに対して明確なコンセンサスが得られていません。

そこで今回はまず、「アクティブラーニングの要素を取り入れた授業」には非常に幅広い内容が含まれていることを、改めて皆さんと確認します。その上で、「模擬授業」の体験を通して、「こういう授業ならもうやっている」「こういう形態であれば自分でもすぐにできる」と思ってもらえることが狙いです。

講師 愛媛大学学長特別補佐，教育・学生支援機構教育企画室長，医学部教授
小林 直人 氏

日程 14:20 開会挨拶 理事(教育・企画担当) 窪田健二
14:25～15:35 講演 愛媛大学 小林直人 学長特別補佐
15:35～15:50 質疑応答
15:50 閉会挨拶 大学教育センター学部教務委員会
教育推進部会長 坂本雅昭

(司会：大学教育センター学部教務委員会
教育推進部会長 坂本雅昭)

主催：大学教育・学生支援機構 大学教育センター

3 学生支援センター

学生支援センターは、学生生活及び就職活動に対する支援、修学に係る相談等を行っている。運営に当たり委員会を置き、各学部等から委員が選出されている。審議内容等は、学生相談、生活支援及び就職支援等である。当該支援業務の事務は、学生支援課が各学部の学生支援担当係と連携を図り行っている。平成30年度の主な支援等の事項は、次のとおりである。

3.1 入学料免除及び徴収猶予

入学料について、学部生においては、特別な事情（学資負担者が1年以内に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合をいう。）により納入が著しく困難な場合について、また、大学院生、専攻科生においては、経済的理由により納入が困難、かつ、学業優秀と認められる場合又は特別な事情により納入が著しく困難な場合について、修学を支援するため、免除及び徴収猶予を行っている。

また、東日本大震災により罹災したことに伴う経済的理由により納入が著しく困難な場合について、免除を行っている。

3.1.1 免除申請者数、免除者数

平成30年度入学料免除申請者数、免除者数は、次のとおりである（詳細は資料3.1.1のとおり）。

4月1日入学：免除申請者数 119人、免除者数 98人

10月1日入学：免除申請者数 13人、免除者数 13人

3.1.2 徴収猶予申請者数、徴収猶予者数

平成30年度入学料徴収猶予申請者数、徴収猶予者数は、次のとおりである（詳細は資料3.1.2のとおり）。

4月1日入学：徴収猶予申請者数 22人、徴収猶予者数 17人

10月1日入学：徴収猶予申請者数 0人、徴収猶予者数 0人

3.2 授業料免除及び徴収猶予

経済的理由により納入が困難、かつ、学業優秀と認められる学生又は特別な事情（学資負担者が納入期限の6ヶ月以内（入学者については、入学前1年以内。）に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合をいう。）により納入が著しく困難な場合について、修学を支援するため、免除及び徴収猶予を行っている。

また、東日本大震災により罹災したことに伴う経済的理由により納入が著しく困難な場合について、又は学部生及び大学院（修士課程、博士前期課程及び専門職学位課程）に在籍する、成績が特に優秀な学生を対象として、免除を行っている。

3.2.1 免除申請者数、免除者数

平成30年度授業料免除申請者数、免除者数は、次のとおりである（詳細は資料3.2.1のとおり）。

前期：免除申請者数 728人、免除者数 611人

後期：免除申請者数 683人、免除者数 608人

3.2.2 徴収猶予申請者数, 徴収猶予者数

平成30年度授業料徴収猶予申請者, 徴収猶予者数は, 次のとおりである (詳細は資料3.2.2のとおり)。

前期: 徴収猶予申請者数 0人, 徴収猶予者数 0人

後期: 徴収猶予申請者数 0人, 徴収猶予者数 0人

3.3 寄宿料免除

本学では, 学生本人又は学資負担者が風水害等の災害を受け, 納入が著しく困難と認められる場合, 免除を行っている。

3.3.1 免除申請者数, 免除者数

平成30年度寄宿料免除申請者数, 免除者数は, 次のとおりである。

免除申請者数 0人, 免除者数 0人

3.4 奨学金

本学では, 日本学生支援機構の奨学金と地方公共団体や民間奨学団体から本学に募集依頼のあった奨学金を扱っている。これらの奨学金は, いずれも学業・人物ともに優秀であり, かつ健康であって経済的理由により学資の支弁が困難であると認められた者が対象となる。

なお, 日本学生支援機構の奨学金には, 無利子貸与の第一種奨学金と有利子貸与の第二種奨学金と返還不要の給付奨学金があり, 貸与奨学金は, 貸与終了後に返還が必要となる。

3.4.1 日本学生支援機構奨学生数 (平成30年10月1日現在)

第一種: 学部生 1,003人, 大学院生 262人

第二種: 学部生 813人, 大学院生 20人

給付: 学部生 32人, 大学院生 0人

(詳細は資料3.4.1のとおり: 「学部生」には, 専攻科生を含む。)

3.4.2 日本学生支援機構以外の奨学生数 (平成30年10月1日現在)

学部生 100人, 大学院生 23人

(「学部生」には, 専攻科生を含む。人数は, 延べ人数でカウント。)

3.5 学生相談体制及び学生相談

本学は, 次のような学生相談体制を設け, 学生の個人的な問題や悩みごとについての相談に応じている。

3.5.1 学生相談体制

全学の学生を対象に荒牧キャンパスに学生相談室を, また, 理工学部の学生を対象に桐生キャンパスに学生相談室分室を設けて相談に応じている。

3.5.2 主な相談事項

主な相談事項は, 勉学・進路・就職活動, メンタルヘルス, クラブ・サークル活動, 経済的事情・アルバイト, 対人関係についてなどである。

3.5.3 学生相談実態調査アンケートの実施及び活用

平成30年12月に助教以上の専任教員に対して、平成30年1月1日から平成30年12月31日までの間に学生から相談のあった内容や各教員の対応について「学生相談実態調査アンケート」を実施し、回収率は57.00%であった。

なお、各教員が個々の相談事例にどのように対処したのかの内容を報告書にまとめ、全教員に配付し学生指導に活用している。

3.6 授業欠席状況調査

欠席状況調査は、授業への受講状況を通して本学学生の学業意欲を調査し、精神面の障害や不健康状態にある者を早期に発見して、面談等により本人へ適切な指導を与えることを目的としている。

3.6.1 授業欠席者数及び主な欠席理由

平成30年度前期欠席者数：14名（詳細は資料3.6.1のとおり）

主な欠席理由：早朝に授業があるため寝坊、精神的な悩み、身体的病気怪我、進路の迷い等

平成30年度後期欠席者数：40名（詳細は資料3.6.1のとおり）

主な欠席理由：早朝に授業があるため寝坊、精神的な悩み、身体的病気怪我、進路の迷い等

3.6.2 実施方法、時期

1) 実施方法

- ・実施時期は、5月（前期）と11月（後期）の年2回を実施基準月とする。
- ・調査対象は、卒業研究に着手(研究室に所属)しない学部全学生とする。
- ・調査科目は、各学部が指定した科目とする。
ただし、1年次は、学部の依頼により大学教育センターが指定した授業科目とする。
- ・調査方法は、調査科目について連続4回の出欠チェックを行う。
- ・集計作業は、各学部担当事務（1年次生は学務部）が行う。
- ・4回のチェックのうち3回以上欠席した者をクラス担任別に集計する。
- ・クラス担任別集計に基づき面接対象一覧と個人ごとの面接票を作成する。
- ・面接票には学籍番号、所属、氏名、住所、電話番号等を記載する。
- ・学部長名（1年次生は学生相談・生活部会長名）で面接対象一覧と面接票を添えて、クラス担任等に対して欠席者の事情聴取を期限内に終了するよう依頼する。

2) クラス担任による欠席者の事情聴取

- ・調査方法は、クラス担任等が対象者を呼び出し、直接面談により欠席理由等を聴取する。
- ・面談により適切な指導を行い、かつ、精神科医の面談の要否を判断し、その内容を面接票に記載して、その都度学部長（1年次生は学務部）に提出する。

3) 医師による欠席者との面談

クラス担任等から学部長（1年次生は学務部）に提出された面接票を健康支援総合センター医師に回付し、医師が指導の必要があると判断した欠席者と面談を行い、必要なカウンセリング等を行う。

3.7 障害学生への支援

障害のある学生がその能力並びに障害の種別及び程度に応じ、十分な教育を受け、学生生活を送ることができるよう、大学教育・学生支援機構学生支援センターに、障害学生支援室を設置している。

3.7.1 支援内容

群馬大学障害学生修学支援実施要項に基づく修学支援の必要な学生には、個別に障害の種別及び程度に応じた支援内容を明記した「配慮願い」を授業担当教員へ通知している。また、全教員に対して「障害学生支援での一般的な配慮事項」を配付して周知を図っている。

聴覚障害学生には、授業ごとに必要に応じて、UDトークやパソコンテイク、手話通訳等の情報保障を行い、肢体不自由学生には、休憩室の設置、車椅子対応の施設整備、低身長者のための踏み台の設置、介助者による移動介助などの支援を行い、内部障害学生には、講義中のトイレ退席等の配慮、また、発達障害学生には、休憩室の設置、健康支援総合センター専任教員及び健康支援総合センター医師による面談、履修相談などの支援を行っている。

3.8 学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険

学生教育研究災害傷害保険は、学生が正課，学校行事，学校施設内外における課外活動，学校施設内，通学，学校施設等相互間の移動時に係る全ての傷害に対して補償を行う保険である。

学研災付帯賠償責任保険は、学生が正課，学校行事，インターンシップ，介護等体験活動，教育実習，ボランティア活動等及びその移動時に，他人にけがを負わせたり，他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する保険である。

本学では，教育研究の円滑な実施のために，入学の際に当該保険に全員が加入することを勧めている。

3.8.1 加入者数

平成30年度の学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の加入者数は，資料3.8.1のとおりである。

3.8.2 請求種別保険金請求件数

平成30年度の学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の請求種別保険金請求件数は，資料3.8.2のとおりである。

3.9 通学証明書，旅客運賃割引証

通学証明書は，学生がJR，私鉄，バス等の通学定期券を購入する際に必要となる証明書である。学生旅客運賃割引証は，学生の修学上の経済的負担軽減と学校教育の振興に寄与することを目的としている制度で，片道乗車区間の距離100kmを超える区間を乗車する際に使用することができる。

通学証明書及び学生旅客運賃割引証発行業務については，荒牧地区，昭和地区，桐生地区及び太田地区で証明書自動発行機にて行っている。

3.9.1 発行枚数及び主な発行理由

平成30年度の通学証明書及び学生旅客運賃割引証の発行枚数等は、資料3.9.1のとおりである。

3.10 学生寮

本学には、前橋地区に養心寮，桐生地区に啓真寮の2寮がある。

学生寮は、学生が修学にふさわしい環境において勉学を継続するための住居施設として設けられている。

3.10.1 養心寮入寮者数

平成30年度の養心寮入寮者数（定員は男子74人，女子62人，合計136人，寄宿料月額4,300円）は，延入居者数が1,534人で，入居率は91.9%である。なお，男子部屋数は77室であるが，入居不可室が3室あるため，74室を定員とした。

3.10.2 啓真寮入寮者数

平成30年度の啓真寮入寮者数（定員は男子65人，女子24人，合計89人，寄宿料月額ワンルーム型25,000円，シェア型15,000円）は，延入居者数が887人で，入居率は83.1%である。

3.11 生活支援施設

本学では、学生生活の利便性を確保し、経済面の支援を図るために荒牧地区、昭和地区及び桐生地区にそれぞれ食堂・売店等を設けており、群馬大学生生活協同組合に委託している。

食堂では食事及び懇親会等を、売店では、書籍、日用品、旅行斡旋等を市価より安く提供している。

3.11.1 食堂

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
座席数	447席 (ホール内405席, 外42席)	286席 (ホール内264席, 外22席)	558席 (ホール内438席, 外20席, 桐園100席)
営業時間	11:00～14:00 17:30～19:30	11:00～14:00	11:00～14:00 17:30～19:30 桐園 11:00～14:00
年間営業日数	250日	238日	242日
年間利用者数	121,124人	43,851人	126,858人
提供メニュー数	40以上	20以上	40以上

3.11.2 売店

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
営業時間	9:30～18:00	8:30～18:00	9:30～18:00
年間営業日数	242日	240日	243日
年間利用者数	152,603人	119,473人	139,801人

3.12 課外活動施設

本学には、荒牧、昭和、桐生の各キャンパスに各種の課外活動施設があり、体育の授業の他、学生の利用に供している。その主な施設については、次のような施設仕様、使用等状況である。

3.12.1 体育施設

○荒牧キャンパス

陸上競技場

陸上競技場は、400メートルトラックである。陸上競技部が主として使用している。

また、トラック内のインフィールドも、やり投げ等の陸上種目の他、多目的な軽スポーツ実施の場として使用している。

サッカー・ラグビー場

サッカー・ラグビー場は、サッカー又はラグビーの公式試合が可能な面積を持っており、サッカー、ラグビー及びフットサル用のゴールが設置してある。また、夜間照明も設置してあり、サッカー部、ラグビー部、アメリカンフットボール部及びフットサルサークルが主として使用している。

テニスコート

テニスコートは、硬式専用コート3面、軟式専用コート3面（いずれもクレーコート）、全天候型コート2面（オムニコート）、両用コート1面（クレーコート（ゴルフ練習施設併設））の9コートがあり、硬式テニス部やソフトテニス部が主として使用している。

また、オムニコートは夜間照明が設置してあり、人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあり、利用率が高い。その反面、人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

野球場

野球場は、天然芝で、夜間照明が設置してある。準硬式野球部、硬式野球部、軟式野球サークル及び医学部準硬式野球部が主として使用している。

プール

プールは、50メートル8コースで、6月から8月まで使用している。水泳部が主として使用している。

第1体育館

第1体育館は、主としてバレーボール、バスケットボールなどに使用し、それぞれ2面使用可能である。バレーボール部、バスケットボール部が主として使用している。

第2体育館

第2体育館は、主としてバドミントン、卓球、体操競技、ダンスなどに使用している。

また、ダンス用の広い面積の鏡や、体操での安全確保用のウレタンを敷き詰めたピットも設けている。バドミントン部、卓球部、体操部、ダンス部が主として使用している。

なお、第1体育館、第2体育館の間にトレーニングルームが併設されている。

武道場

武道場は、剣道用の床面が1面、柔道用の畳面が1面の計2面があり、各種武道で使用する他、畳面にレスリング用マットを敷き詰めてレスリングをすることも可能である。剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部が主として使用している。

弓道場

弓道場は、平成22年度に新営され、公式試合が可能となった。弓道部が主として使用している。

馬場

馬場は、馬術部が使用している。乗馬して練習すると馬場の表面が荒れるため、馬術部学生が馬場の部室に常駐（授業時間及び深夜を除く）し、馬の飼育と馬場の管理を行っている。

なお、飼育している馬は馬術部の所有であり、その餌代は学生が拠出している。

○昭和キャンパス

体育館

体育館は、バレーボール・バスケットボール・バドミントンなどの球技で使用するアリーナと、剣道場・柔道場各1面の武道場があり、武道場の2階は卓球場となっている。

昭和地区では体育の正課授業がないため、学生の課外活動用として、バレーボール部、バスケットボール部、バドミントン部、剣道部、柔道部、卓球部が主として使用している。

弓道場

弓道場は敷地面積が狭隘であるため、荒牧地区と比べると射場の幅は狭くなっている。弓道部が主として使用している。

○桐生キャンパス

菱グラウンド（サッカー・ラグビー場、野球場）

サッカー・ラグビー場は、サッカー及びラグビー用のゴールが設置してあり、サッカー部、ラグビー部及びフットサルサークルが主として使用している。野球場は、天然芝で、硬式野球部が主として使用している。

テニスコート

テニスコートは全天候型コート（オムニコート）が3面あり、硬式テニス部、ソフトテニス部が主として使用している。

また、夜間照明が設置してあり、人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあり、利用率が高い。その反面、人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

プール

プールは、25メートル7コースで、6月から8月まで使用している。水泳部が主として使用している。

体育館

体育館は、1階には剣道用の床面が1面、柔道用の畳面が1面の計2面があり、各種武道で使用している。剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部、ダンスサークル、八木節同好会が主として使用している。また、トレーニングルームも併設されている。2階は主として球技用のフロアであり、バスケットボール部、バレーボール部、卓球部、バドミン

トン部が主として使用している。

弓道場

弓道場は、弓道部が主として使用している。

3.12.2 文化施設

文化施設等は、次のとおりである（荒牧キャンパスのみ）。

ミュージズホール

ミュージズホールは、大学会館内の多目的ホールで、各種会合、集会等に使用する施設である。

集会室

2室の集会室があり、うち1室は和室である。和室は主として茶道部が使用している。

3.12.3 課外活動共用施設

○荒牧キャンパス

課外活動共用施設は、南北に2棟あり、北棟は主として運動系サークルが、南棟は主として文化系サークルが共同で利用している施設である。北棟は1階、2階ともに8部屋の計16部屋あり、南棟は1階、2階ともに6部屋の計12部屋がある。

北棟1階に運動講義関係の器具庫があり、その他の部屋は部室として使用している。南棟は音楽演奏に向く防音の部屋が1室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。また、荒牧祭実行委員会もこの課外活動共用施設を中心に活動している。

○昭和キャンパス

課外活動施設は体育館と繋がっており、1階、2階、3階に各6部屋の計18部屋あり、1階には音楽演奏に向く防音の部屋が4室ある。主に文化系クラブ・サークルが利用している。

○桐生キャンパス

課外活動共用施設は、1階に9部屋、2階と3階に各6部屋の計21部屋あり、1階には音楽演奏に向く防音の部屋が1室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。主に文化系クラブ・サークルの活動場所や運動部の器具庫及び倉庫として利用している。

3.12.4 合宿所

○荒牧キャンパス

4部屋あり、広さは談話室が12畳、1・2号室が計22畳、3号室が14畳、4号室が14畳である。

なお、就寝用具などは学生の持ち込みとなっている。

○桐生キャンパス

4部屋あり、広さは1号室が12畳、2号室が15畳、3・4号室が各6畳である。

関東甲信越大学体育大会などの各種競技大会開催間近には、強化合宿で利用率が非常に高くなる。

なお、各部屋には就寝用具が備えられており、共用の調理場や浴室等も利用できる。

3.13 学生団体及び主な活動

学生団体及び主な活動は、次のとおりである。

3.13.1 学生団体

平成30年度のクラブ・サークルは、資料3.13.1のとおりである。

本学の運動部で対外試合のある種目では、荒牧キャンパスと桐生キャンパスは「4年制大学」の出場枠となり、昭和キャンパスは「6年制大学」の出場枠となるため、同じスポーツ名ではあっても「荒牧・桐生」と「昭和」は別団体、というクラブ・サークルが多い。

3.13.2 大学祭

学生の意識高揚と、広く群馬大学を学外に情報発信することなどを目的とし、大学祭を開催している。

- ・荒牧祭（荒牧キャンパス）は、平成30年11月23日（土）～24日（日）に開催し、来場者数は約6,300人であった。
- ・医学祭（昭和キャンパス）は、隔年開催のため平成30年度は開催しなかった。
- ・群桐祭（桐生キャンパス）は、平成30年10月20日（土）～21日（日）に開催し、来場者数は約2,700人であった。

3.13.3 関東甲信越大学体育大会

関東甲信越大学体育大会は、学生スポーツの健全な発達及び普及を図り、併せて相互の親睦に資するため関東甲信越地区13大学（東京地区大学を除く。）が共同で開催している。

平成30年度は、長岡技術科学大学が主管校として、信州大学、新潟大学の3大学が担当して行われた。平成30年8月15日(水)～9月2日(日)の日程で全種目が開催され、各大学が担当した競技は以下のとおりである。

長岡技術科学大学担当：テニス、水泳、弓道

信州大学担当：ソフトテニス、剣道、空手道、硬式野球、サッカー、体操、柔道

新潟大学担当：陸上競技、バスケットボール、準硬式野球、ラグビー、バレーボール、バドミントン、卓球

群馬大学が好成績（3位以上）を取めた競技は以下のとおりである。

- ・優勝：空手道（自由）
- ・第3位：ソフトテニス（男子）、ラグビー

3.13.4 クラブ・サークルリーダーシップ研修会

クラブ・サークルリーダーシップ研修会は、クラブ・サークルの新旧リーダー等を対象に、課外活動団体の健全な活動及び発展に寄与させることを目的として毎年行っている。

平成30年度は、以下のとおり実施した。

第1回 平成31年2月20日(水)

(研修内容)

- ・講演 ①「酒とタバコについて」
②「自殺予防について（ゲートキーパーの養成）」
③「情報モラルについて」
④「オウム真理教の動向と危険性について」
⑤「学生サポートについて」
- ・AED講習

3.14 研修施設

研修施設として北軽井沢研修所と草津セミナーハウスがある。その概要等は次のとおりである。

3.14.1 北軽井沢研修所

この研修所は、本学の教員及び学生等がセミナー等で利用することを目的に昭和49年に設置された。所在地は、群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢字南木山榎2032-242（北軽井沢大学村1条8丁目）で、敷地面積2,497㎡、建物面積285㎡のC型鋼ビン接合フレーム型2階建の建物となっている。

収容人員は15人で居室は3、研修室1、炊事施設等が完備されている。開所時期は、5月1日から10月15日までで、施設運営費は、1人1日1,000円、食事は自炊となっている。ただし、本学の教職員及び学生以外は施設運営費の他に施設使用料1人1日40円が必要となる。

平成30年度延利用者数

群馬大学所属者	その他	総数
189人	84人	273人

3.14.2 草津セミナーハウス

この施設は、関東甲信越地区国立大学の共同利用合宿研修施設として、教職員及び学生が起居を共にし、相互に研鑽し人間関係を深め、対話や学習を重ねながら教養を高め、自然に親しみ、豊かな人間性を育成することを目的に昭和59年に設置された。所在地は群馬県吾妻郡草津町大字草津字白根737である。

上信越県境にそびえる草津白根山の中腹に広がる日本有数の温泉地、草津町にあるこの施設は、敷地12,084㎡、建物延2,569㎡で120人を収容することができる。

四季を通して、セミナーや体育館を利用したのクラブ合宿の他、冬のスキー、春の新入生合宿、夏の登山及び秋の自然観察など、多彩な利用ができる。

草津セミナーハウス使用料金表（平成30年度）

区 分	(1) 地区国立大学教職員・学生	(2) (1) 以外の者
運 営 費	1,600円 (2,100円)	2,000円 (2,500円)
施設使用料	(2) の者のみが負担（毎年4月1日決定）	
食 事	朝食 480円	昼食 520円 夕食 1,020円

- (1) 地区国立大学とは関東甲信越地区国立大学をいう。
- (2) () 内の金額は10月1日から4月30日までの運営費である。
- (3) 地区国立大学の教職員及び学生以外が利用する場合は、施設運営費の他に施設使用料1人1日100円が必要となる。
- (4) 既納の運営費及び施設使用料は還付しない。ただし、使用日の7日前までの取り消しについては、運営費の70%を還付する。

平成30年度延利用者数

地区大学所属者	地区大学所属者以外	総数
2,551人	1,740人	4,291人

3.15 学生の就職支援

荒牧キャンパスに全学生が利用可能な進路指導室としてキャリアサポート室を設置している。学生自身の適性や志向を見定め、明確な目的意識を持たせ、社会や仕事、働くことの意味や意義を考え学ばせる実践的な就業体験や各種の就職ガイダンス・セミナーを開催し、多様化する就職活動に対する支援を行っている。

3.15.1 進路状況及び主な就職先

平成30年度の学生の進路状況等は、資料3.15.1のとおりである。

3.15.2 全学就職ガイダンス・セミナーの開催

本学で実施した就職ガイダンス等は、次のとおりである。

- 1) 就職ガイダンス

基本講座	全5回	参加延人数	358人
実践講座	全19回	参加延人数	920人
特別講座	全5回	参加延人数	157人
- 2) 公務員講座
(全6回、参加延人数：248人)
- 3) 各種試験対策講座
(全9回、参加延人数：789人)
- 4) インターンシップ関係説明会及び体験報告会
(全6回、参加延人数：1,271人)
- 5) 合同企業説明会・公務員等業務概要説明会・合同企業説明会への輸送支援
(全6回、参加延人数：1,275人)
- 6) その他・就職支援セミナー等
(全6回、参加延人数：201人)

3.15.3 キャリアカウンセリングの充実

学生の就職相談体制の強化として、前橋地区及び桐生地区にキャリアカウンセラーを配置し、対面式によるカウンセリングを実施した。さらに、ハローワークの協力により、個別相談会や集団面接模擬練習を実施した。

- 1) 利用延人数：529人
- 2) 主な相談・指導内容
 - ・就職活動の進め方・職業適性・自己分析の相談
 - ・エントリーシート、履歴書の添削
 - ・面接試験の指導助言

3.15.4 キャリアサポート室における情報収集環境の充実

- 1) 学生用に就職情報検索等のためのパソコン・プリンターを設置
- 2) 各種企業情報データを集約して教務システムに公表
- 3) 各種求人・会社説明会・インターシップ・公務員試験案内等の設置と配付
- 4) 先輩の就職活動報告書の公開
- 5) 就職関連書籍・ガイダンス撮影ビデオの貸出
- 6) 就職ガイダンス開催・各種企業説明会、セミナー等の案内やカウンセリングの予約状況等について、ツイッター、Gメールによる情報発信

3.15.5 就職支援の体制強化の充実

- 1) 国公立大学が参加する就職指導担当者研修会や全国就職指導ガイダンスにおいて意見交換を図るとともに企業の人事担当者等による専門的助言や情報の収集により就職支援体制を強化した。
- 2) 体験型インターンシップを推進するため、実習先企業を継続的に確保し、また受入企業の新規開拓を図った。
 - ・事前説明会参加者：616人
 - ・実習事前講座参加者：330人
 - ・実習参加者：499人
 - ・インターンシップ終了後の体験報告会参加者：325人

3.15.6 就職支援BOOKの作成・配付

就職支援BOOK（手帳版）を作成し、各学部の就職対象学生に配付した。

3.16 就業力育成支援

大学教育センター、理工学部、社会情報学部と連携し、以下のような就業力育成の取組を実施している。

- 1) 学生の就業力育成のため、就業力育成支援室を設置し、キャリアサポート室と連携しながら、社会人としての就業観育成から将来の就業までを意識したキャリア教育をおこなっている。
- 2) 就業力育成のための科目として、初年次教育で「キャリア計画（2単位）（必須科目）」、「キャリア設計（2単位）」（理工学部1年生対象）及び「学びを構築する（2単位）」（社会情報学部1年生対象）を実施している。これらの授業では、学外の有識者や学内研究者等の講演会も実施している。
- 3) 企業での就業体験型インターンシップの事前教育として、理工学部2年生を対象に座学と企業見学を主内容とした「インターンシップI（1単位）」を、キャリアと社会の諸相について理工学部3年生を対象に「キャリア展開（2単位）」を開講している。
- 4) 学びの履歴・アンケート等は、電子的に記録し、自身の学びを振り返ることのできるキャリアデザインポートフォリオシステムを利用している。
- 5) これらの就業力育成関連の科目やインターンシップを統合化し、学士課程を通じて、学年進行に応じたキャリア教育を展開している。

3.17 学生生活実態調査

学生の生活実態や要望等を把握し、有効な学生支援の方策を検討するために、5年毎に実施することとした学生生活実態調査を、平成15年度、平成20年度、平成25年度及び平成30年度に実施した。

また、内容を報告書にまとめ、講師以上の教員及び関係事務職員に配付し、学生支援への活用を図っている。

3.18 キャンパスニュース群の発行

「キャンパスニュース群」は、主に各キャンパスの学生活動情報をウェブサイトに掲載し発信している。

主な掲載内容は、各地区学園祭及びフットサル大会レポート、クラブ・サークル活動紹介等である。

3.19 事件・事故

本学学生が関係した事件・事故の件数は、次のとおりである。

- ・交通事故：19件（学内6件，学外13件）
- ・盗難：5件
- ・その他犯罪被害等：8件

3.20 学生支援センター資料集

資3.1.1, 3.1.2：平成30年度入学料免除及び入学料徴収猶予実施状況

資3.2.1, 3.2.2：平成30年度授業料免除及び授業料徴収猶予実施状況

資料3.4.1：日本学生支援機構奨学生数（平成30年10月1日現在）

資料3.6.1：平成30年度学部1～3年次生欠席状況調査一覧（前期，後期）

資料3.8.1：平成30年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険加入者数

資料3.8.2：平成30年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

資料3.9.1：平成30年度通学証明書発行枚数，学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

資料3.13.1：平成30年度クラブ・サークル一覧

資料3.15.1：平成30年度学部卒業生の進路状況及び主な就職先

平成30年度授業料免除

	免除申請者数 (人)		免除許可者数 (人)		合計(延べ人数)
	前期	後期	判定 全額免除 半額免除	前期 後期	
教育学部	84	78	162	52 19	103 40
社会情報学部	50	48	98	30 13	60 28
医学部	39	25	64	16 5	28 11
保健学科	61	63	124	41 14	79 32
理工学部(工学部) 総合理工学科(夜間主)除く	218	208	426	128 54	247 117
学部の計	452	422	874	105 123	517 228
総合理工学科(夜間主)	7	5	12	5 0	8 1
教育学研究科 (修士課程)	10	9	19	5 4	10 7
教育学研究科 (専門職学位課程)	1	1	2	0 1	0 2
社会情報学研究科	15	14	29	13 1	26 2
医学系研究科 (生命医科学専攻)	8	4	12	6 0	9 1
保健学研究科 (博士前期課程)	28	21	49	16 5	22 14
理工学府(工学研究科) (博士前期課程)	133	139	272	82 32	173 65
大学院修士課程の計	195	188	383	122 43	240 91
医学系研究科 (医科学専攻)	34	33	67	27 5	53 11
保健学研究科 (博士後期課程)	13	10	23	3 9	5 17
理工学府(工学研究科) (博士後期課程)	25	24	49	19 5	36 10
大学院博士課程の計	72	67	139	49 19	94 38
特別支援教育特別専攻科	2	1	3	0 1	0 2
合計	728	683	1411	443 168	859 360

平成30年度授業料徴収猶予実施状況

	猶予申請者数 (人)		猶予許可者数 (人)		合計(延べ人数)
	前期	後期	判定 全額猶予 半額猶予	前期 後期	
教育学部	0	0	0	0	0
社会情報学部	0	0	0	0	0
医学部	0	0	0	0	0
保健学科	0	0	0	0	0
理工学部(工学部) 総合理工学科(夜間主)除く	0	0	0	0	0
学部の計	0	0	0	0	0
総合理工学科(夜間主)	0	0	0	0	0
教育学研究科 (修士課程)	0	0	0	0	0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	0	0	0
社会情報学研究科	0	0	0	0	0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	0	0	0	0	0
保健学研究科 (博士前期課程)	0	0	0	0	0
理工学府(工学研究科) (博士前期課程)	0	0	0	0	0
大学院修士課程の計	0	0	0	0	0
医学系研究科 (医科学専攻)	0	0	0	0	0
保健学研究科 (博士後期課程)	0	0	0	0	0
理工学府(工学研究科) (博士後期課程)	0	0	0	0	0
大学院博士課程の計	0	0	0	0	0
特別支援教育特別専攻科	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0

資料 3.4.1

日本学生支援機構奨学生数 (平成30年10月1日現在)

平成30年10月1日現在(人)

学部・研究科	区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		計					
		一種	二種	給付	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	給付	計			
学部	教育学部	社会学部	44	30	5	54	35	43	44	35	29				176	138	5	319	
		情報学部	23	18	6	25	26	39	20	33	20				120	84	6	210	
	医学部	医学科	12	10	1	10	12	19	16	11	17	9	14	8	69	75	1	145	
		保健学科	45	40	5	41	26	52	28	34	29				172	123	5	300	
	工学部	昼間コース									1				0	1	0	1	
		夜間主コース													0	0	0	0	
	理工学部		118	83	15	107	107	125	95	114	107				464	392	15	871	
	学部計		242	181	32	237	206	278	203	227	203	9	14	8	1001	813	32	1846	
	大学院	特別支援教育特別専攻科	修士課程	2												2	0	0	2
			専門職学位課程	2			7									9	0	0	9
社会学部		修士課程	1												1	0	0	1	
		修士課程	1			3									4	0	0	4	
保健学研究科		修士課程	2			1									3	0	0	3	
		博士前期課程	7			6	1								13	1	0	14	
工学研究科		博士前期課程													0	0	0	0	
		博士後期課程													0	0	0	0	
理工学府		博士前期課程	103	10		116	9								219	19	0	238	
		博士後期課程	5			4		4							13	0	0	13	
大学院計		121	10	0	137	10	4	0	0	0	0	0	262	20	0	0	282		
総計																2130			

※一人の学生が第一種と第二種と給付を併用している場合もあるので、延べ人数である。

資料 3.6.1

平成30年度学部1～3年次生欠席状況調査一覽 (前期)

	教育学部 名	社会情報学部			医学部			理工学部 (工学部) 名	合計 名
		名	名	名	医学科	保健学科	計		
1年生 対象者数	238	102	111	162	273	540	1,153		
欠席者数	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.2%	1 0.1%		
2年生 対象者数	228	109	148	167	315	549	1,201		
欠席者数	0 0.0%	2 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 0.9%	7 0.6%		
3年生 対象者数	230	130	125	166	291	625	1,276		
欠席者数	1 0.4%	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%	1 0.3%	4 0.6%	6 0.5%		
合計 対象者数	696	341	384	495	879	1,714	3,630		
欠席者数	1 0.1%	2 0.6%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.1%	10 0.6%	14 0.4%		

※ 学生数は、平成30年5月1日現在
※ 欠席者数下段は、欠席率

平成30年度学部1～3年次生欠席状況調査一覽 (後期)

	教育学部 名	社会情報学部			医学部			理工学部 (工学部) 名	合計 名
		名	名	名	医学科	保健学科	計		
1年生 対象者数	238	102	111	160	271	537	1,148		
欠席者数	1 0.4%	3 2.9%	3 2.7%	1 0.6%	4 1.5%	7 1.3%	15 1.3%		
2年生 対象者数	228	109	148	167	315	547	1,199		
欠席者数	2 0.9%	5 4.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 0.9%	12 1.0%		
3年生 対象者数	230	129	125	166	291	624	1,274		
欠席者数	0 0.0%	1 0.8%	2 1.6%	0 0.0%	2 0.7%	10 1.6%	13 1.0%		
合計 対象者数	696	340	384	493	877	1,708	3,621		
欠席者数	3 0.4%	9 2.6%	5 1.3%	1 0.2%	6 0.7%	22 1.3%	40 1.1%		

※ 学生数は、平成30年11月1日現在
※ 欠席者数下段は、欠席率

資料 3.8.1

平成30年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険加入者数

学部(人) (平成31年3月31日現在)

学部名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
教育学部	197	229	230	227	0	0	895
社会情報学部	78	109	99	125	0	0	419
医学部	101	114	140	143	121	106	731
保健学科	143	166	171	160	0	0	644
計	244	280	311	303	121	106	1,375
理工学部	433	513	532	599	0	0	2,129
昼間コース	30	32	32	34	0	0	131
夜間コース	463	545	564	633	0	0	2,260
計	982	1,163	1,204	1,288	121	106	4,949
合計							

大学院・専攻科(人) (平成31年3月31日現在)

研究科名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
教育学研究科	27	41	0	0	3	0	71
社会情報学研究科	2	10	0	0	1	0	13
医学研究科	6	11	0	0	2	0	19
修士課程	21	50	57	62	3	0	193
博士課程	15	50	0	0	1	0	66
博士前期課程	4	11	12	0	0	0	27
博士後期課程	46	122	69	62	6	0	305
計	242	343	0	0	48	0	633
理工学府	4	23	20	0	7	0	54
工学研究科	246	366	20	0	55	0	687
特別支援教育特別専攻科	11	0	0	0	0	0	11
合計	332	539	89	62	65	0	1,087

資料 3.8.2

平成30年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

(件)

	学生教育研究災害傷害保険						学研災付帯 賠償責任保険	総計
	正課中	学校行事中	通学中	課外活動中	その他	合計		
荒牧地区	4	4	7	3	0	18	0	18
昭和地区	1	0	3	4	0	8	0	8
桐生地区	7	0	2	0	2	11	1	12
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	12	4	12	7	2	37	1	38

資料 3.9.1

平成30年度通学証明書発行枚数

(枚)

荒牧地区		昭和地区		桐生地区		太田地区		合計
電車	バス	電車	バス	電車	バス	電車	バス	
555	389	70	120	153	14	14	0	1,315

平成30年度学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

(枚)

	正課	帰省	就職	課外活動	見学	旅行	その他 傷病・治療	計
荒牧地区	205	3,259	1,446	752	1,014	582	21	7,279
昭和地区	476	4,802	875	1,219	1,087	379	37	8,875
桐生地区	464	2,789	2,008	621	473	209	6	6,570
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,145	10,850	4,329	2,592	2,574	1,170	64	22,724

平成30年度クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
1	荒牧ジャズ研究会	○				文化部
2	アドバンス[Advance]ボランティア子供向けイベント	○				文化部
3	E. S. S(English Speaking Society)	○				文化部
4	囲碁・将棋部	○				文化部
5	泉の会(知的障害の子供と遊ぶ会)	○				文化部
6	ELMO(遊びのプログラム)		○			文化部
7	映画研究会	○	○			文化部
8	SRC(献血)	○	○	○		文化部
9	E∞gg[えっぐ]医療や社会について学ぶ		○			文化部
10	エレクtoon部		○			文化部
11	演劇部テアトル・ヒューメ	○				文化部
12	音楽研究会			○		文化部
13	オリエンテーリング部	○		△		文化部
14	カル旅研究会(かるた)	○				文化部
15	かるた会	○		○		文化部
16	合唱サークル Pico		○			文化部
17	学生団体ink	○		○		文化部
18	きょうだいの会ぱずる	○				文化部
19	気象天文研究部	○		○		文化部
20	競技麻雀部	○		○		文化部
21	医学部競技麻雀部		○			文化部
22	教育学部八木節研究会	○				文化部
23	群馬おきりこみ合唱団	○				文化部
24	群馬大学BBS会(ボランティア・少年少女の悩み)	○	○	○		文化部
25	群馬大学AI, IOT研究会	○				文化部
26	群馬大学外科手技サークル		○			文化部
27	教育サークル・青竹(ボランティア・児童教育研究)	○				文化部
28	Guit's(アコースティックギター)		○			文化部
29	クラシックギター部	○		○		文化部
30	グリークラブ	○		○		文化部
31	折紙研究会"Origin"	○	○	○		文化部
32	折紙研究会"Origin"(桐生支部)			○		文化部
33	医学部軽音楽部		○			文化部
34	国際医療ボランティアの会(FORS)		○			文化部
35	Beyond(ボランティア留学生と交流)	○				文化部
36	混声合唱団	○		○		文化部
37	茶道部	○				文化部
38	写真部(荒牧)	○				文化部
39	写真部(昭和)		○			文化部
40	写真部(桐生)			○		文化部
41	手話サークル でんでんむし	○				文化部
42	医学部手話サークル でんでんむし		○			文化部
43	書道部	○				文化部
44	進化するサルのだれでもわかる科学教室	○				文化部
45	0から始めるゲーム制作会	○				文化部
46	聖書研究会			○		文化部
47	GA研究会(アニメ・ゲーム研究会)	○				文化部
48	GMA(中学生のネット見守り活動サークル)	○				文化部
49	G. K. オールスターズ	○		○		文化部
50	吹奏楽団	○	○	○		文化部
51	たんぽぽ(自閉症児ふれあい支援)	○				文化部

平成30年度クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
52	地域活性化団体 enerGy	○				文化部
53	哲学の森		○			文化部
54	天文部		○			文化部
55	電子計算機研究会 IGGG			○		文化部
56	TRPG研究会(テーブルゲーム研究会)	○		△		文化部
57	東洋医学研究会		○			文化部
58	読書同好会			○		文化部
59	AAA☆KIDS(トリプルエーキッズ)ボランティア小児喘息		○			文化部
60	ド学連(MD-PhD勉強会)		○			文化部
61	ボードゲーム倶楽部	○	○	○		文化部
62	Pastel Plan	○				文化部
63	美術愛好会		○			文化部
64	ビリヤード部		○			文化部
65	ピアノ部		○			文化部
66	PCDC(多文化交流)	○		○	○	文化部
67	ファンタスティック手芸部	○				文化部
68	フィルハーモニックオーケストラ部	○		○		文化部
69	フォーク・ロック愛好会	○		○		文化部
70	Fore-Bridge Orchestra(ビッグバンドジャズ)		○			文化部
71	FLOW Orchestra	○	○			文化部
72	Voice Cream(アカペラサークル)	○	○	○		文化部
73	漫画研究部	○		○		文化部
74	マンドリン・ソサエティ		○			文化部
75	前橋文学会		○			文化部
76	民間伝承研究会	○				文化部
77	メサイア管弦楽団・合唱団	○				文化部
78	モダンジャズ研究会(医学部)		○			文化部
79	モダンジャズ研究会(理工学部)			○		文化部
80	野外教育研究会	○	○	○		文化部
81	八木節同好会			○		文化部
82	野草を食べる会		○			文化部
83	夢のわたらせなないろ号	○	○			文化部
84	落語・コント研究会	○		○		文化部
85	ラジオ同好会			○		文化部
86	レストアサークル(機械分解修理)	○		○		文化部
87	LAMP(イベント企画団体)	○				文化部
88	ロボット研究会	△		○		文化部
89	LEADS(小児糖尿病)		○			文化部
90	YMCAクラブ(子供たちと交流)	○	○	○		文化部
91	情報メカトロニクス研究部			○		文化部
92	R. F. C(スノーボード)	○		○		運動部
93	合気道部	○	○	○		運動部
94	アルティメット部	○				運動部
95	アメリカンフットボール部	○		○		運動部
96	医学部サイクリング部 医輪(いちやり)		○			運動部
97	医学部★ダンスサークル		○			運動部
98	Et's(バスケットボール)		○			運動部
99	エスケープ(硬式テニス)	○				運動部
100	学生フォーミュラチーム	○		○	○	運動部
101	空手道部	○		○		運動部
102	環境プロセススポーツ同好会			○		運動部

平成30年度クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
103	弓道部(全学)	○		○		運動部
104	弓道部(医学科)		○			運動部
105	弓道部(保健学科)		○			運動部
106	CRAFT(フットサル)	○				運動部
107	群馬の希望(サッカー・フットサル)	○				運動部
108	剣道部(全学)	○	○	○		運動部
109	剣道部(医学部)		○			運動部
110	Get's(サッカー)	○	○			運動部
111	硬式テニス部(全学)	○				運動部
112	硬式テニス部(医学部)女		○			運動部
113	硬式テニス部(医学部)男		○			運動部
114	硬式野球部	○		○		運動部
115	古武術部	○				運動部
116	ゴルフ部(医学部)		○			運動部
117	サイクリング部	○		○		運動部
118	サッカー部(全学)	○				運動部
119	サッカー部(医学部)		○			運動部
120	サバイバルゲーム部			○		運動部
121	少林寺拳法部	○		○		運動部
122	自動車部	○		○	○	運動部
123	柔道部(荒牧)	○	○	○		運動部
124	柔道部(理工学)			○		運動部
125	柔道部(医学)		○			運動部
126	準硬式野球部	○				運動部
127	準硬式野球部(医学部)	○	○			運動部
128	水泳部	○	○	○		運動部
129	スキー部(全学)	○	○	○	○	運動部
130	スキー部(医学部)		○			運動部
131	Seven Stars(フットサル)	○				運動部
132	Roughソフトテニスサークル	○		○		運動部
133	ソフトテニス部(全学)	○		○		運動部
134	ソフトテニス部(医学部)		○			運動部
135	体操部	○		○		運動部
136	卓球部(全学)	○		○		運動部
137	卓球部(医学部)		○			運動部
138	ダンス部	○				運動部
139	ツバサFCコーチングスタッフ	○				運動部
140	軟式野球サークル アウイル	○	○	○		運動部
141	ハンドボール部	○				運動部
142	馬術部	○	○	○		運動部
143	バスケットボール研究会	○				運動部
144	バスケットボール部(全学)	○				運動部
145	バスケットボール部(医学部)		○			運動部
146	バスケットボール部(理工学部)			○		運動部
147	女子バスケットボール部(医学部)		○			運動部
148	バドミントン部(全学)	○		○		運動部
149	バドミントン部(医学部)男子		○			運動部
150	バドミントン部(医学部)女子		○			運動部
151	バレーボール部(全学)	○				運動部
152	バレーボール部(医学部)		○			運動部
153	バレーボール部(保健学科)		○			運動部

平成30年度クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
154	B-STYLE(ダンス)	○		○		運動部
155	Vit'z(ダブルダッチ)		○			運動部
156	ファーストブレイク(バスケットボールサークル)	○				運動部
157	フリースタイル・フットボールサークル	○		○		運動部
158	V. B. C. 桐生(バレーボール)			○		運動部
159	フィールドホッケー部	○				運動部
160	フットサル部	○		○		運動部
161	フットサルサークル		○			運動部
162	ボウリングサークル El Bolos		○			運動部
163	borderless(卓球サークル)	○				運動部
164	メモリアルテニス部	○				運動部
165	ラグビー部(全学)	○		○		運動部
166	ラグビー部(医学部)	○	○			運動部
167	陸上競技部(全学)	○		○		運動部
168	陸上競技部(医学部)		○			運動部
169	Let's Met's		○			運動部
170	ONE WAY(バレーボール)	○				運動部
171	RUSH(フットサル)	○				運動部
172	LEST(水泳サークル)	○	○	○		運動部
173	ワンダーフォーゲル部	○	○	○		運動部
174	Gunma University Motorcycle Club (旧バイク部)			○		運動部

資料 3.15.1

平成30年度学部卒業生の進路状況

学部	区分	卒業年度	卒業業者数 (A)	進学者数				就職者数										就職活動中	その他 (D)	就職率 (E) $E=C/(A-B+D) \times 100$					
				大学院・専攻科	他大学学部等	研究生等	各種専修学校等	留学	計 (B)	業種別内訳															
										教員					医療機関	企業等	公務員等				自営業	左欄以外			
										小	中	高	特別支援	その他											
教育学部		H30	223	25								1	92	32	8	10	1	1	22	17	1	1	186	6	96.9
	社会情報学部	H30	118	3		1	4												81	26		3	110		100.0
医学部	医学科	H30	107														100						100		100.0
	保健学科	H30	157	19		1	21										121		1	13			135	1	100.0
理工学部		H30	570	323		2	326								1	1	1	1	188	34	3		228	16	100.0
	昼間コース	H30	5																3				3	2	100.0
工学部	夜間主コース	H30																							
	計	H30	1180	370		4	376					2	92	32	9	11	1	223	295	90	4	4	762	6	99.2

備考:その他(D)欄は、各種試験準備、留学生の帰国、家事従事、不明等である。

平成30年度学部卒業生の主な就職先

企業・機関:本社所在地(青字は群馬県)

【教育学部】

■教育

〈幼稚園・認定こども園〉

江木幼稚園

〈小学校〉

前橋市 高崎市 桐生市 伊勢崎市 太田市 沼田市 館林市 渋川市 藤岡市 安中市 みどり市 吉岡町 神流町 片品村 昭和村 みなかみ町 玉村町の各教育委員会 群馬大学教育学部附属小学校
福島県 足利市 上尾市 市原市 小田原市 半田市の各教育委員会

〈中学校・中等教育学校〉

前橋市 高崎市 桐生市 伊勢崎市 太田市 沼田市 館林市 渋川市 富岡市 藤岡市 昭和村 榛東村の各教育委員会 群馬大学教育学部附属中学校
埼玉県 久喜市 桜川市 諏訪市 金沢市の各教育委員会

〈高等学校〉

群馬県教育委員会 高崎商科大学附属高等学校 常磐高等学校 新島学園高等学校 前橋育英高等学校 埼玉県教育委員会

〈特別支援学校〉

群馬県教育委員会 栃木県 埼玉県 千葉県の各教育委員会

■公務

群馬県
伊勢崎市
玉村町
長野県警察
長岡市

前橋市
太田市

足利市

高崎市
安中市

栃木市

■企業・法人・研究施設等

関東精機(株)
(株)globeコーポレーション
群馬工業高専専門学校
上越印刷工業(株)
(株)ヤマダホームズ
(株)エーシーエス
(株)情報技術センター
(株)テクノプロ

キーコーヒー(株)
(株)群馬銀行
群馬大学
ファームドゥホールディング(株)

(株)カラフルクローバー
全日本空輸(株)
(株)テレコム

(有)きたもつく
群馬県国民健康保険団体連合会
GNホールディングス(株)
まつもと歯科医院

(株)JALスカイ
太陽誘電(株)
(株)Life Foundation

【社会情報学部】

■公務

群馬県	前橋市	高崎市
太田市	渋川市	藤岡市
安中市	榛東村	長野原町
東吾妻町		
国立障害者リハビリテーションセンター	秋田県警察	福島県
長野県	佐野市	東松山市
八潮市	東村山市	南足柄市
六ヶ所村		

■企業・法人・研究施設等

(株)アプロ	(株)岡本工作機械製作所	(株)クライム
ぐんぎんシステムサービス(株)	(株)群馬銀行	群馬県国民健康保険団体連合会
群馬県信用組合	群馬県産業支援機構	群馬県社会福祉協議会
群馬大学	群馬テレビ(株)	群馬ヤクルト販売(株)
(株)サンボウ	しのめ信用金庫	全国共済農業協同組合連合会群馬県本部
(株)東和銀行	(株)藤井経営	(株)物流サービス
(株)ミツバ	(株)ヤマダ電機	(株)ヤマダホームズ
(株)リクルート北関東マーケティング		
(株)アイキューブ	(株)浅沼経営センターホールディングス	(株)イオン銀行
イオンモール(株)	(株)インテック	(株)エス・イー・シー・ハイテック
(株)SGエキスパート	榎山工業(株)	関東開発(株)
(株)関東マツダ	(株)キャン	(株)グローバルリンクマネジメント
(株)経済法令研究会	小森マシナリー(株)	サンワ(株)
(株)CINグループ	(株)ジェイアール東日本商事	(株)JR東日本ステーションサービス
(株)JWAY	(株)システムマネージメント	(株)七十七銀行
しなの鉄道(株)	(株)セイファート	関彰商事(株)
ソニービズネットワークス(株)	(株)ゾフ	第一生命保険(株)
太陽誘電(株)	中央労働金庫	(株)TBSスパークル
(株)テクノプロ	トレンドマイクロ(株)	新潟県労働金庫
(株)ニーズウェル	日本アイビーエム・ソリューション・サービス(株)	(株)日本直販総本社
(株)パズル	(株)八十二銀行	パナソニックホームズ北関東(株)
東日本リオン(株)	東日本旅客鉄道(株)	(株)フォーミュレーションI.T.S
(株)福島民報社	(株)フロンティアインターナショナル	(株)文化工房
(株)マーキュリー	(株)MITAS	山崎製パン(株)
(株)ユウワ	ユニー(株)	(株)レジェンド・アプリケーションズ
(株)ワム		

【医学部 医学科】

※病院名は通称で表記

■医療・福祉業

伊勢崎市民病院
群馬県済生会前橋病院
公立藤岡総合病院
利根中央病院
老年病研究所附属病院
NTT東日本関東病院
川崎市立多摩病院
杏林大学医学部附属病院
国立病院機構東京医療センター
さいたま市民医療センター
自治医科大学附属さいたま医療センター
信州大学医学部附属病院
茅ヶ崎市立病院
東京大学医学部附属病院
東京臨海病院
長野松代総合病院
藤沢市民病院
横浜栄共済病院

太田記念病院
群馬大学医学部附属病院
渋川医療センター
日高病院
沖縄県立中部病院
川崎市立井田病院
慶應義塾大学病院
小張総合病院
JR東京総合病院
自治医科大学附属病院
住友別子病院
千葉西総合病院
東京都立墨東病院
獨協医科大学埼玉医療センター
日野市立病院
武蔵野赤十字病院
横浜市立みなと赤十字病院

桐生厚生総合病院
群馬中央病院
高崎総合医療センター
前橋赤十字病院
川崎幸病院
京都府立医科大学附属病院
公立学校共済組合関東中央病院
災害医療センター
JCHO東京新宿メディカルセンター
新久喜総合病院
立川相互病院
東京医科歯科大学附属病院
東京山手メディカルセンター
虎の門病院
深谷赤十字病院
横須賀共済病院
横浜労災病院

【医学部 保健学科】

※病院名は通称で表記

■公務

前橋市
茨城県
小山市
岡谷市

太田市
栃木県
さいたま市
南部町

玉村町
東京都
松本市

■医療・福祉業

伊勢崎市民病院
群馬県済生会前橋病院
群馬中央脳神経外科病院
利根中央病院
堀江病院
前橋赤十字病院
わかば病院
相澤病院
鎌ヶ谷総合病院
北原国際病院
熊谷生協病院
国立がん研究センター東病院
埼玉医科大学病院
さいたま赤十字病院
佐久総合病院
昭和大学病院
諏訪赤十字病院
多摩北部医療センター
東京医科大学病院
戸田中央総合病院
豊見城中央病院
長野赤十字病院
日本赤十字社医療センター
南長野医療センター 篠ノ井総合病院

上牧温泉病院
群馬県立がんセンター
群馬中央病院
沼田脳神経外科循環器科病院
療育センターさばう
上尾中央総合病院
北柏リハビリ総合病院
行田総合病院
慶應義塾大学病院
国立成育医療研究センター
さいたま記念病院
埼玉セントラル病院
JAとりで総合医療センター
新上三川病院
聖隷沼津病院
千葉県済生会習志野病院
東京慈恵会医科大学附属病院
とちぎメディカルセンター
富山県リハビリテーション病院
長野中央病院
深谷赤十字病院
横須賀市立市民うわまち病院

桐生厚生総合病院
群馬大学医学部附属病院
デイサービスひゅーげ
はんなさわらび療育園
前橋市子ども発達支援センター
老年病研究所附属病院
茨木医誠会病院
北里大学病院
杏林大学医学部附属病院
国際医療福祉大学成田病院
越谷市立病院
埼玉県立病院
埼玉よりい病院
自治医科大学附属病院
新久喜総合病院
たすく(株)
東京医科歯科大学附属病院
東京大学医学部附属病院
獨協医科大学病院
虎の門病院
西尾市民病院
富士宮市立病院
電ヶ崎済生会病院

■企業・法人・研究施設等

(株)エスアールディ

【理工学部 化学・生物化学科】【工学部 応用化学・生物化学科】

■教育

〈高等学校〉
白鷗大学足利高等学校

〈特別支援学校〉
群馬県教育委員会

■公務

群馬県
伊勢崎市
福島県警察
愛媛県
狭山市

前橋市
藤岡市
栃木県
小山市

高崎市
警視庁
さいたま市

■企業・法人・研究施設等

IHIエアロスペース・エンジニアリング(株)
サンノーバ(株)
高崎信用金庫
(株)原田・ガトーフェスタ ハラダ
モーリン化学工業(株)
(株)ADEKA
(株)NTTデータビジネスシステムズ
山洋電気(株)
(株)大気社
中外製薬工業(株)
東和電気(株)
日揮ユニバーサル(株)
(株)日立ソリューションズ東日本
(株)ベネッセスタイルケア
ムラタ計測器サービス(株)
(株)リコー

(株)アイリス
(株)ジーシーシー
館林瓦斯(株)
藤田エンジニアリング(株)
(株)ヨコオデイリーフーズ
(株)エス・ジー
花精化学工業(株)
(株)JCU
大日本印刷(株)
東京製綱(株)
トライコーン(株)
日興リカ(株)
(株)日立ソリューションズ・クリエイト
堀川産業(株)
持田製薬(株)
ローランド(株)

サンデンホールディングス(株)
(株)スイシン
ニプロ医工(株)
マック食品(株)
(株)リクルート北関東マーケティング
NSファーファ・ジャパン(株)
帰燕・Kien
(株)芝浦電子
大陽日酸エンジニアリング(株)
東洋電装(株)
中本パックス(株)
白十字(株)
フコク情報システム(株)
(株)マルヨシ
UTテクノロジー(株)
(株)ワールドインテック

【理工学部 機械知能システム理工学科】

※病院名は通称で表記

■医療・福祉業

足利赤十字病院

■企業・法人・研究施設等

群馬県農業共済組合
(株)古川製作所
曙プレーキ工業(株)
オートリブ(株)
(株)小糸製作所
スズキ(株)
(株)タイロス
(株)東芝メモリ
日本電産(株)
マニー(株)
(株)メイテック

サンデンホールディングス(株)
(株)ミツバ
NOK(株)
(株)沖データ
コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)
ソニーLSIデザイン(株)
DXCテクノロジー・ジャパン(株)
東洋製罐(株)
パナソニックESエンジニアリング(株)
三菱自動車工業(株)
(株)メイテックフィルダーズ

(株)千代田製作所
(株)山田製作所
(株)荏原製作所
カルソニックカンセイ(株)
昭和電工(株)
太陽誘電(株)
東芝テック(株)
日清紡ホールディングス(株)
Panasonic Industrial Devices Malaysia SDN.BHD
(株)ミヤオカンパニーリミテド
(株)ユニテック

【理工学部 環境創生理工学科】【工学部 環境プロセス工学科、社会環境デザイン工学科】

■公務

群馬県
伊勢崎市
国土交通省関東地方整備局
埼玉県
さいたま市

前橋市
太田市
岩手県
神奈川県
横芝光町

高崎市
栃木県
新潟県

■企業・法人・研究施設等

環境システム(株)
サンノーバ(株)
(株)アクロスペイラ
開発設計コンサルタント(株)
クボタ環境サービス(株)
コムチュア(株)
新興プランテック(株)
(株)東芝インフラシステムズ
フクビ化学工業(株)
菱和設備(株)

佐田建設(株)
ニプロ医工(株)
厚木プラスチック(株)
鹿島建設
栗田工業(株)
サンテックノスプラントエンジニアズ(株)
(株)新日本コンサルタント
(有)パディー
松井建設(株)

サンデンホールディングス(株)
(株)ヤマト
(株)エンプラス
キャスレーコンサルティング(株)
コーセイインダストリーズ(株)
JR東日本コンサルタンツ(株)
(株)セラク
白十字(株)
(株)守谷商会

【理工学部 電子情報理工学科】【工学部 電気電子工学科、情報工学科】

■公務

群馬県
防衛省

群馬県警察
神奈川県警察

沼田市

■企業・法人・研究施設等

(株)ギャレリア・ニズム
サンデンホールディングス(株)
東京パーツ工業(株)
(株)ミツバ
(株)アイリスオーヤマ
(株)オフィスエフエイ・コム
(株)コスダック
(株)ジャストシステム
(株)西武鉄道
太陽誘電(株)
帝国繊維(株)
(株)東光高岳
(株)トップゲート
日本電算(株)
白十字(株)
(株)ビジュアルコミュニケーションズ
福島コンピュータシステム(株)
(株)ラック

ぐんぎんシステムサービス(株)
システムアルファ(株)
トヨタカローラ群馬(株)
(株)両毛システムズ
(株)NTTデータ
関電工(株)
サミーネットワークス(株)
スターフィールド(株)
セコムトラストシステムズ(株)
(株)タニタ
(株)テイセンテクノ
東芝デジタルソリューションズ(株)
(株)日放電子
日本プロセス(株)
(株)東日本技術研究所
日立オートモティブシステムズ(株)
北銀ソフトウェア(株)
(株)リンクル

サンデンシステムエンジニアリング(株)
東京コンピューターサービス(株)
(株)プランニング
(株)エム・オー・シー
岐阜県市町村行政情報センター
(株)シーエスイー
(株)SUBARU
(株)ソルバック
(株)ティアンドティ
(株)テクノプロ
東北電力(株)
日本システム・エイト(株)
ハイテックシステム
東日本旅客鉄道(株)
(株)VSN
(株)明電舎
ルネサスエレクトロニクス(株)

【理工学部 総合理工学科】

■公務

太田市

■企業・法人・研究施設等

三益半導体工業(株)
(株)飯沼ゲージ製作所
トーヨーカネツソリューションズ(株)
(株)モリテックス

(株)KSK
(株)ナカムラ
(株)ヨドバシカメラ

(株)三商
(株)フジケン